

# 令和4年度第1回奄美大島三太郎線周辺における夜間利用適正化連絡会議

日時：2022年8月9日（火）10:00～12:00

場所：住用公民館（WEB開催と併用）

## 議事次第

- (1) 試行ルールの運用状況モニタリングの結果について  
(試行開始から現在までの継続モニタリング結果及びGW詳細調査の結果)
- (2) 試行ルールの運用状況を踏まえた当面の対応について
- (3) 実証実験の実施について
- (4) 今後のスケジュールについて

## 資料一覧

次第・出席者名簿

資料1：試行ルールの運用状況モニタリング結果の概要

資料2：試行ルールの運用状況を踏まえた当面の対応

資料3：試行ルール変更に関する実証実験について

資料4：今後のスケジュール（案）

追加資料；意見照会における主な意見と対応（案）

参考資料1：奄美大島三太郎線周辺における夜間利用適正化のための試行ルール

参考資料2：住用住民からの要望書

参考資料3：三太郎線周辺におけるお子様向けナイトツアーイベント（チラシ）

## 試行ルールの運用状況モニタリング結果の概要

### 1. 継続モニタリング結果（ルール試行開始後～令和4年5月30日）

#### （1）利用動態

- 予約情報及び現地に設置した自動撮影カメラの分析の結果、期間内の総利用台数は2043台で、予約利用が1811台（88.6%）、未予約利用が232台（11.4%）だった。未予約利用率は4月、5月、3月がそれぞれ20.9%、14.0%、12.4%と多くなった。
- 石原栄間線は、申請558台に対して、利用は561台だった。ただし、当該路線の学術・行政利用申請（2件）が含まれている可能性がある。
- スタル俣線の利用は、58台見られた。ただし、当該路線の学術・行政利用申請（32台）が含まれている可能性がある。

利用月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	期間計
総利用台数	29台	299台	333台	130台	210台	461台	335台	258台	2043台
予約利用	24台	266台	312台	122台	196台	404台	265台	222台	1811台
割合	82.8%	89.0%	93.7%	93.8%	93.3%	87.6%	79.1%	86.0%	88.6%
未予約利用 <sup>※1</sup>	5台	33台	21台	8台 <sup>※2</sup>	14台	57台	70台	36台	232台
割合	17.2%	11.0%	6.3%	6.2%	6.7%	12.4%	20.9%	14.0%	11.4%
石原栄間線									
申請数	12台	108台	108台	70台	80台	78台	48台	54台	558台
利用台数	14台	97台	105台	39台	77台	131台	59台	39台	561台 <sup>※3</sup>
スタル俣線利用台数	2台	21台	17台	12台	6台	24台	12台	5台	58台 <sup>※4</sup>
学術・行政利用申請	0台	0台	3台	9台	2台	15台	6台	0台	35台
無断キャンセル	2台	35台	32台	25台	23台	40台	27台	27台	211台
データ欠測数 <sup>※3</sup>	7台	52台	0台	117台	0台	0台	0台	0台	176台

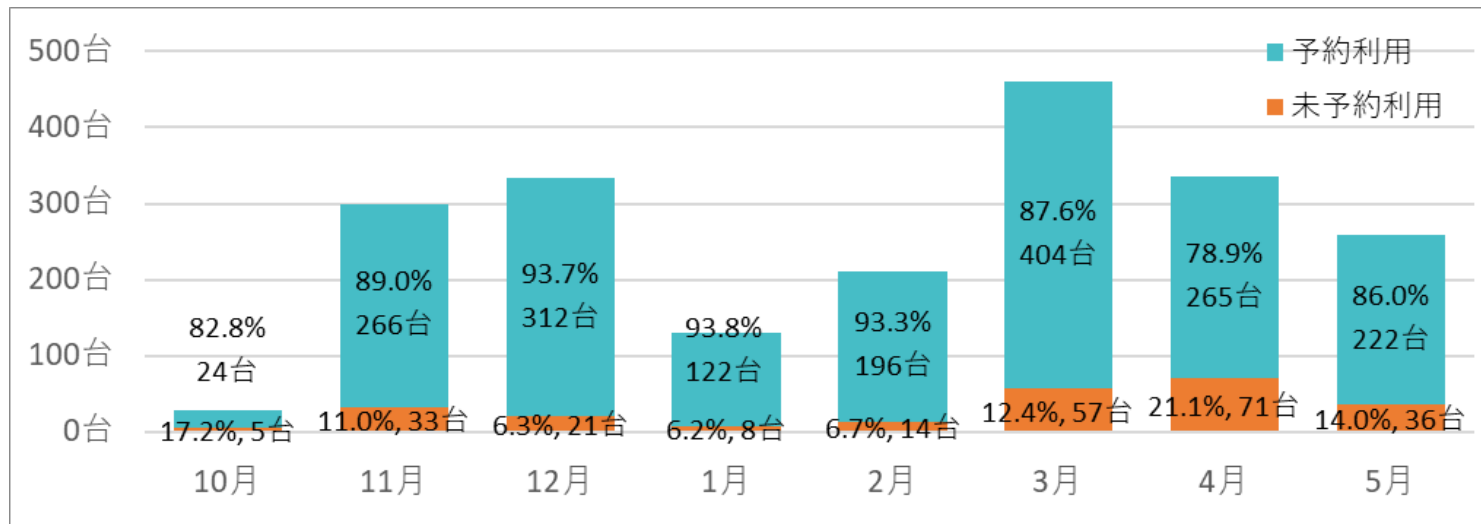
※1：未予約利用には、事前に申請した地元（土地所有者）の車両、学術申請車両が含まれている可能性がある。今後は、精度向上のため、車番認識システムの利用を想定している。（現在、センサー精度を調整中）

※2：令和3年1月15日深夜に見られたトンガ諸島付近の火山噴火に伴う避難者と思われる車両については集計対象外とした。（未予約利用数に計上していない。）

※3：石原栄間線を利用する学術・行政利用申請が2件あった。ただし、申請と実績が異なる可能性があるため、利用台数から学術・行政利用申請数を差し引きはしていない。

※4：スタル俣線を利用する学術・行政利用申請が32件あった。ただし、申請と実績が異なる可能性があるため、利用台数から学術・行政利用申請数を差し引きはしていない。

※5：データ欠測数は、データ欠測期間の予約台数。



予約/未予約利用の内訳の推移

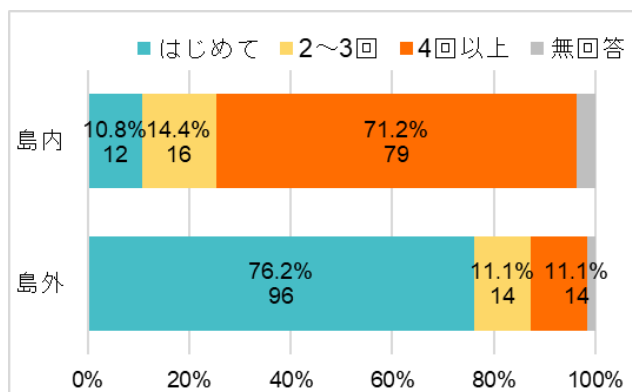
## (2) 利用者アンケート

### ① 回答者属性と利用回数

- 期間内に 238 件の回答があり、うち島内 126 件、島外 111 件であった。
- 推定回答率は月によって差が大きく、期間計では 24.3%であった。
- 利用回数については、島外回答者ははじめての利用が多かったのに対し、島内利用者は 4 回以上の利用者が多かった。

利用月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	無回答	期間計
回答数	25	76	25	19	21	14	20	36	2	238
島内	20	56	9	5	9	5	2	20	0	126
島外	5	19	16	14	12	9	18	16	2	111
無回答	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
予約台数	24	266	312	122	196	404	265	222	—	1811
推定回答率(%)	104.2	28.6	8.0	15.6	10.7	3.5	7.5	16.2	—	24.3

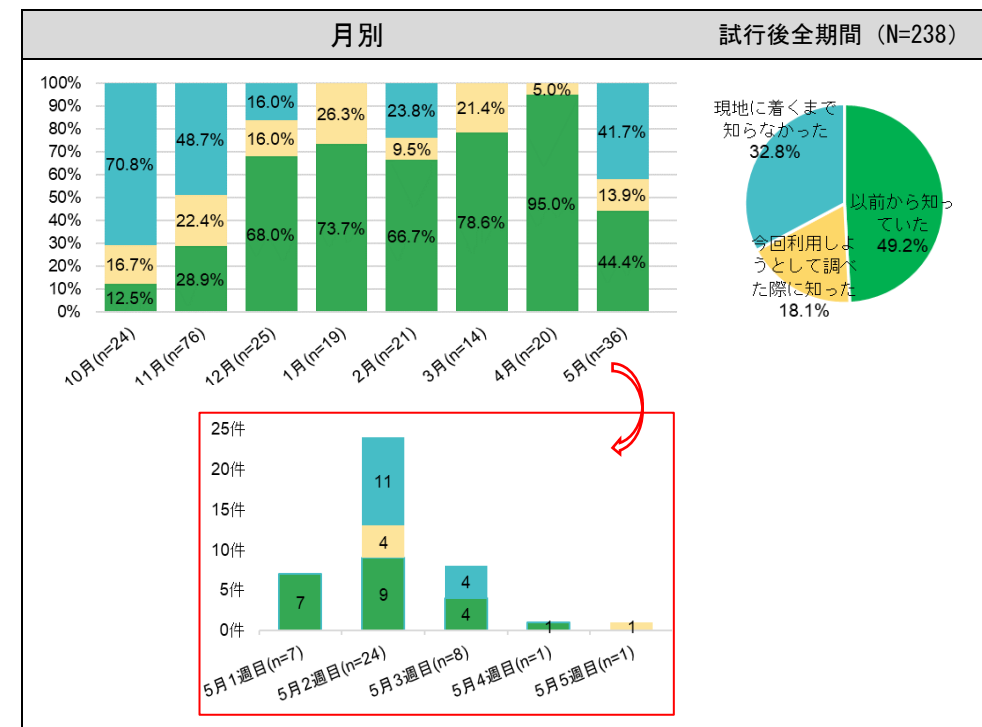
※推定回答率は予約台数=アンケート配布数と仮定して算出。(実際は、特にガイド利用では 1 件の予約に対して複数件の回答が得られる可能性がある。)



### ② ルールの認知度

- ルール開始直後は「現地に着くまで知らなかった」が多かったが、4月までは徐々に認知度が高まっていた。
- 5月は認知度が大きく低下した。週別で見ると特にGW期間(2週目)は利用者の半数以上が現地に着くまで知らなかった。

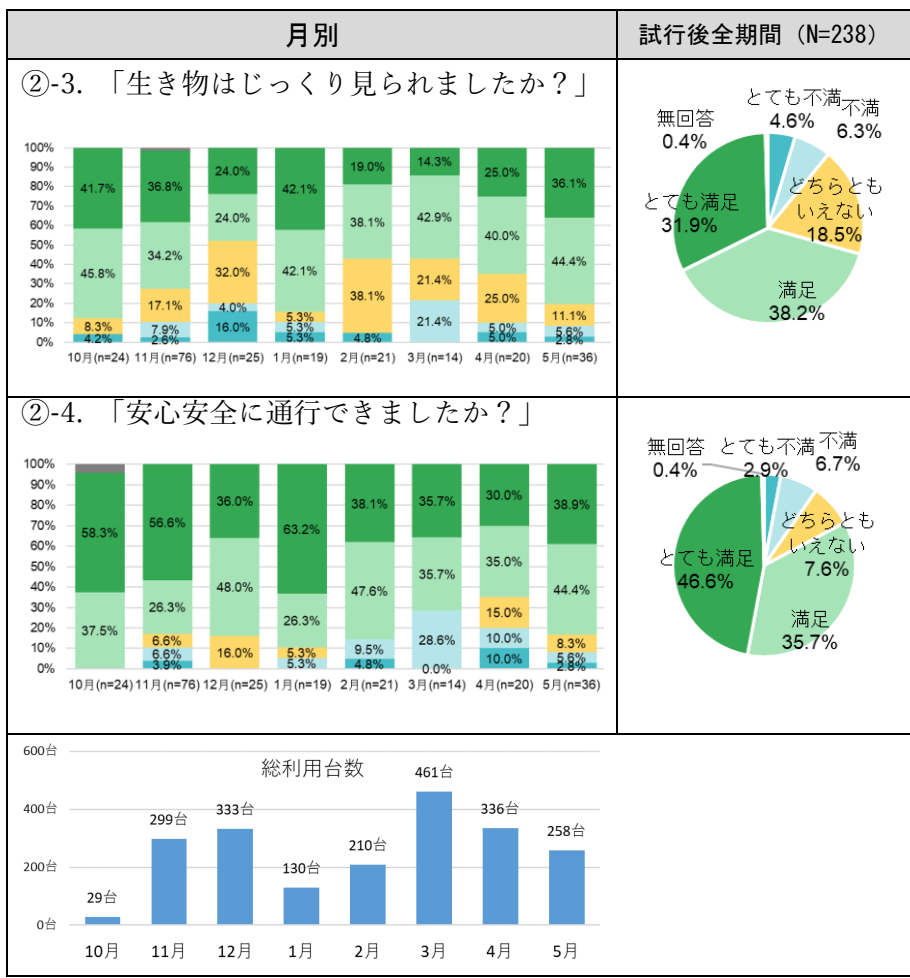
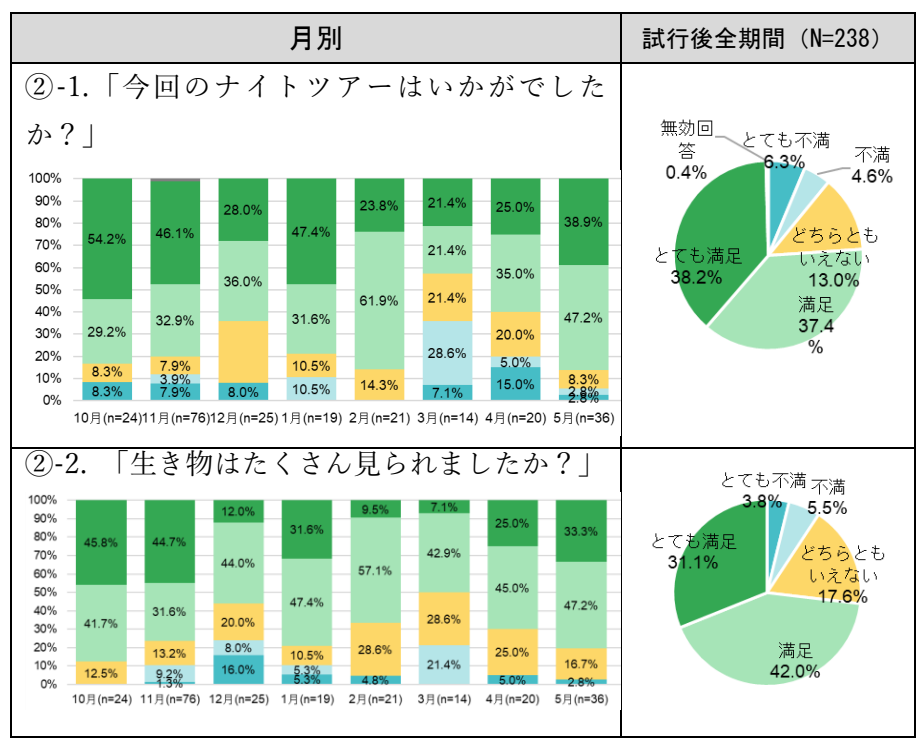
「三太郎線周辺における夜間利用ルールが試行開始されたことをご存知でしたか？」



※1日を含む週の月曜日～日曜日を「1週目」とカウントした。(例：11/29(月)～12/5(日)→12月1週目)

③ 利用者満足度

○3月、4月は満足度が低かった。  
 ○項目別では、3月、4月の安心安全な通行に関する満足度は特に「不満」または「とても不満」と回答した人が多かった。  
 ○3月、4月は利用台数が多かったため、利用台数が満足度に負の影響を与えた可能性がある。



④ 混雑度・遭遇時の感想

「混雑状況について、どう感じたか教えてください」

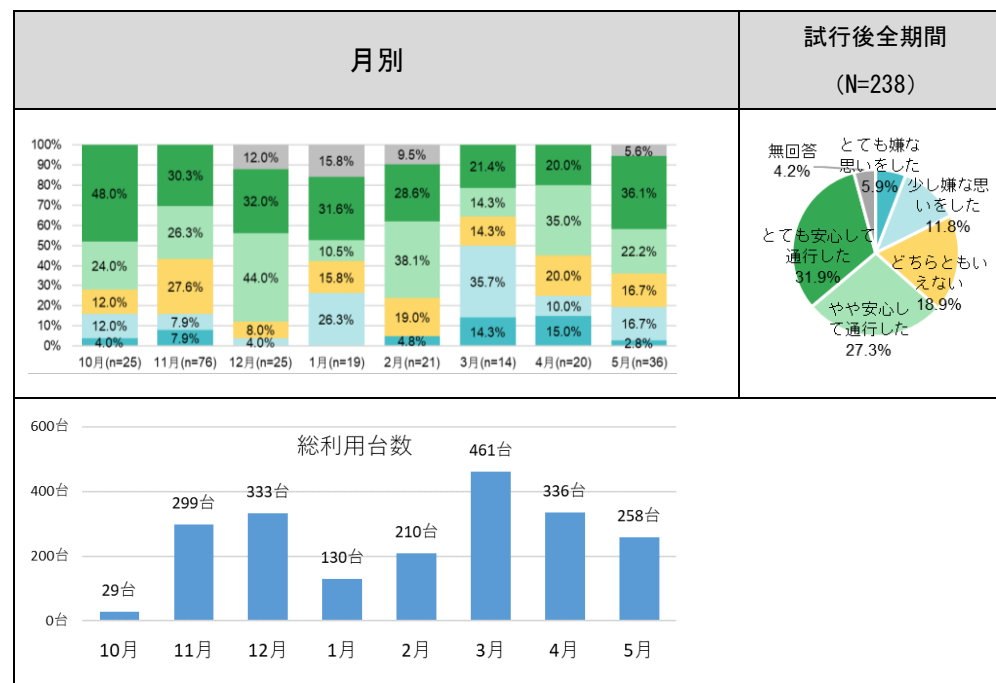
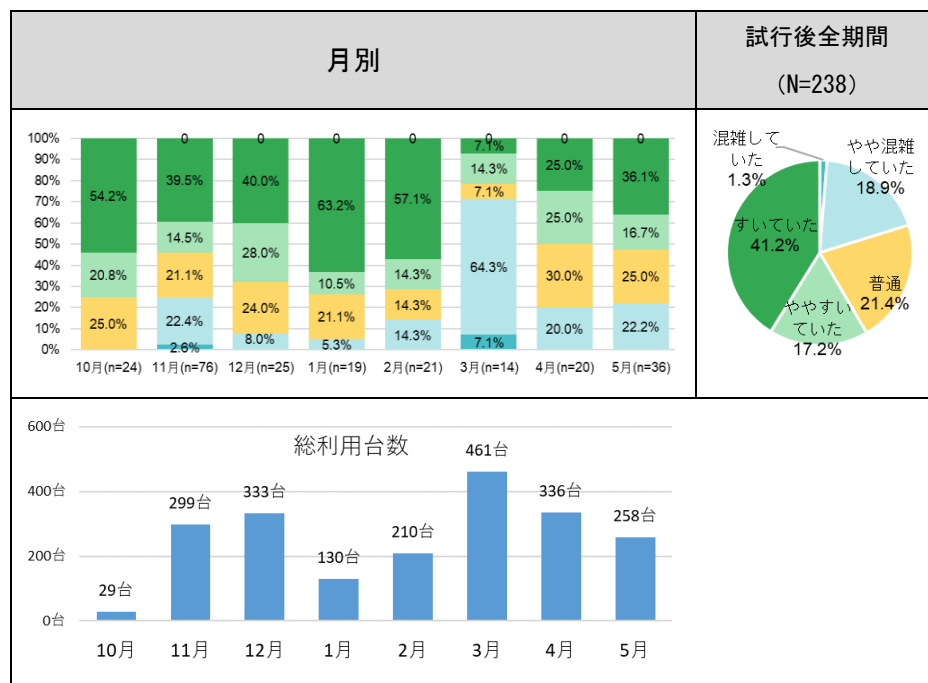
○3月は混雑を感じた人が7割以上と多かった。4月、5月も2月以前より多い傾向にある。

○3月は特に利用台数が多かったため、利用台数と混雑感に正の相関が考えられる。

「他の車と遭遇した方は、その時の感想を教えてください。」

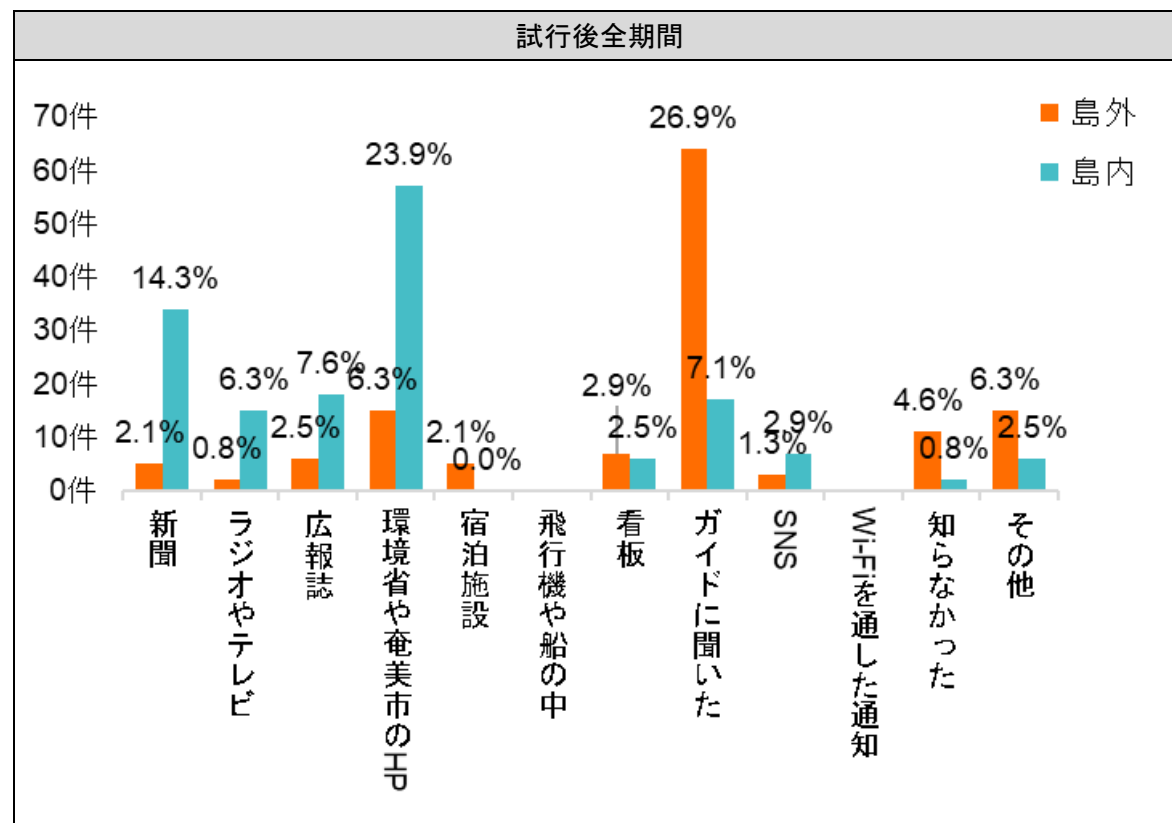
○3月は嫌な思いをしたと回答している割合が半数となり、非常に高かった。

○利用台数、混雑感との間に正の相関が考えられる。



## ⑤ ルールをどこで知ったか

○島外利用者は「ガイドに聞いた」が最も多く、島内利用者は「環境省や奄美市のHP」が多かった。



## ⑥ 自由記述意見（抜粋）

※ガイドからの回答も含まれる。

## 〈未予約対策等〉

- ・すれ違う車が予約の数より多かったため、恐らく予約していない車がいたのだと予測します。入り口にゲートを設けるなどしたほうが良いと思いました。
- ・あまりにも予約ルール無視車両がおおすぎる。春休み・GW・夏休み・週末は入り口にゲートか監視員必要
- ・予約車以外の車が多い。対策は急務、夏の繁忙期前に。
- ・予約無しで入る車が多すぎる。センサーカメラで確認して無いのでしょうか？酷すぎる。
- ・規制をするにあたって人員配置や罰則を設けるなどしないと一部の人がやりたい放題してそのうち問題が起こる。
- ・監視カメラの他に、出入り口に監視員を配置した方がより効果的。（そういう所に市や環境省のスタッフが外部委託などして、しっかりと対応しないとダメ）
- ・数百円でも入場料、又はそれぞれの出入り口に募金のような形で費用を取り、保護の財源に充てても良いと感じます。

## 〈予約サイトのレビュー〉

- ・奄美の自然を守るためにルールの遵守が大事だと思いますが、クチコミの愚痴合戦は少しだけないかなと思いました。
- ・建設的な意見交換より意見の合わない個人を攻撃するような方がいるので、通行を巡って荒れて、事件がおきるかもしれません。

- ・ロコミではガイドツアーの方が上から目線の投げ掛けをされたと載っていて怖かったが、すれ違い時しっかり挨拶して頂き安心できた。

## 〈講習会〉

- ・受講者だけが入山できるルールを追加してください。早急に！
- ・「講習会は絶対に必要」です！三太郎線に門をつけたり、人を絶たせたりする予算がないのであれば、「講習会」を開いて周知徹底していくしか方法は無いと思います。本当にここ最近では夜間ルールを守ることが嫌になる出来事ばかりです。
- ・講習会開催・参加義務付けは急務と思われます。

## 〈台数について〉

- ・クジラスイムに重ねて行くので人数が10人前後になります。そのため、1グループ2台だと助かります。

## 〈その他〉

- ・外に体を出しているジープのナイトツアーを無くしてほしいです。
- ・夜間のスタルマタ線の徒歩での侵入は許可していただきたい。
- ・看板が見づらかった。
- ・スタート時刻になるまでの待機中に、モダマを観察したいので、できればスタート地点をモダマのところにしてくれると都合が良い。



## 2. ゴールデンウィーク詳細モニタリング結果

利用ピーク時の状況を詳細に把握するためにGW期間のモニタリング調査を実施した。調査実施期間（4月29日～5月8日）の自動撮影カメラの分析、利用者及びガイドアンケートに加え、現地調査（5月3日～5月5日）において聞き取り調査を実施した。

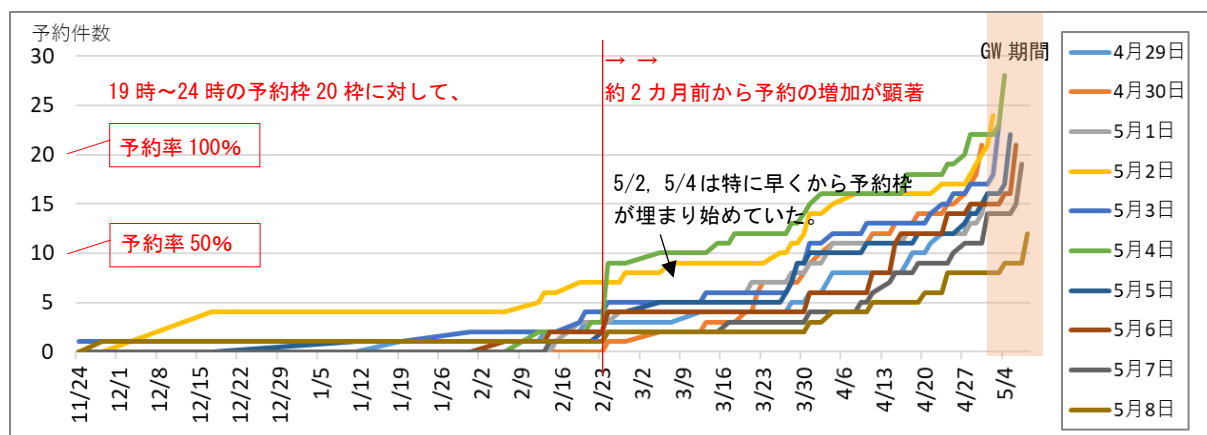
調査手法	期間	項目	備考
予約サイト分析	R4. 4. 29-5. 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>予約者の属性</li> <li>予約率の推移</li> </ul>	
自動撮影カメラ		<ul style="list-style-type: none"> <li>利用台数</li> <li>予約、未予約利用</li> <li>予約時間遵守</li> <li>石原栄間線、スタル俣線利用状況</li> </ul>	車番認識システムのデータと試験的に突合
利用者アンケート		<ul style="list-style-type: none"> <li>利用満足度</li> <li>混雑の感じ方</li> <li>観察頭数、種数</li> <li>ルールの認知度 等</li> </ul>	回答数 28 件 ※先述の継続モニタリングアンケートに統合して分析
ガイドアンケート		<ul style="list-style-type: none"> <li>利用満足度</li> <li>混雑の感じ方</li> <li>ルールに対する意見 等</li> </ul>	回答数 8 件 ※期間中に三太郎線でナイトツアーを実施したガイドに配布
現地聞き取り調査	R4. 5. 3-5. 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>走行状況（他車両との遭遇） 等</li> </ul>	19時～23時に実施

### (1) 予約状況

- ガイドが約3/4を占め、地元、レンタカーは合計2割程度であった。（右表）
- 予約時期については、早い場合には前年11月から埋まった枠もあった。
- 多くの枠が埋まり始めたのは**約2カ月前**からであり、直前にはさらに多くの予約が入った。
- 地元利用者で最も早い予約は4/4であった。

属性	予約数	割合
ガイド	153	76.1%
地元	21	10.4%
レンタカー	17	8.5%
不明	10	5.0%
合計	201	100.0%

→地元利用者が予約を検討する段階で、特に早めの時間は多くの枠が埋まっていたと考えられる。



## (2) 利用動態

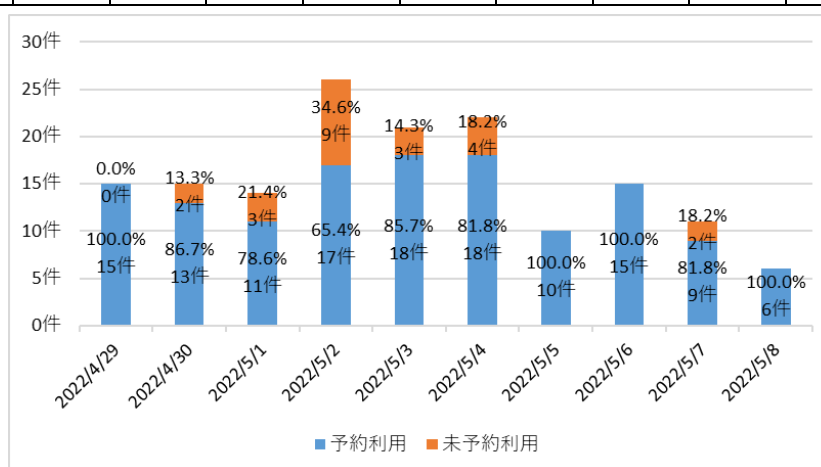
### 1) 利用台数【GW 全期間】

○合計 155 台の利用があった。

○未予約利用は合計 23 台 (14.8%) であり、日別での最大は 5/2 の 9 件 (34.6%) であった。

(単位：台)

日付	4/29 (金・祝)	4/30 (土)	5/1 (日)	5/2 (月)	5/3 (火・祝)	5/4 (水・祝)	5/5 (木・祝)	5/6 (金)	5/7 (土)	5/8 (日)	総計	割合
予約 利用	15	13	11	17	18	18	10	15	9	6	132	85.2 %
未予約 利用	0	2	3	9	3	4	0	0	2	0	23	14.8 %
合計	16	15	14	26	21	22	10	15	11	6	155	100.0 %



### 2) 利用者属性【現地調査 3 日間】

○5月3日～5日に聞き取り調査を実施した 53 台のうち、**ガイド車が 31 台**と約 6 割を占めた。

○地元車は 14 台 (26.4%)、レンタカーは 7 台 (13.2%) であった。

(単位：台)

	5月3日	5月4日	5月5日	期間計	割合
ガイド	12	13	6	31	58.5%
地元	4	7	3	14	26.4%
レンタカー	4	2	1	7	13.2%
不明	1	0	0	1	1.9%
合計	20	22	10	53	100.0%

## 3) 未予約者の状況【現地調査3日間】

## ①未予約者の台数

○未予約で現地にきた車両は合計 25 台で、そのうち 7 台が未予約で利用、13 台が利用を自粛、5 台が当日の空き枠を予約して利用した。

(単位：台)

	5月3日	5月4日	5月5日	期間計	割合
未予約で現地にきた台数	5	18	2	25	100.0%
うち未予約利用	3	4	0	7	28.0%
うち利用自粛	2	11	0	13	52.0%
うち空き枠(当日)を予約	0	3	2	5	20.0%

## ②未予約者の属性

○調査時間内に未予約で現地にきたのは地元(その親戚や友人を含む)が半数以上であった。

(単位：台)

	未予約利用	利用自粛	空き枠(当日)を予約	合計	割合
ガイド	0	2	0	2	8.0%
地元	5	6	3	9	56.0%
レンタカー	1	3	2	6	24.0%
不明	1	2	0	3	12.0%
合計	7	13	5	25	100.0%

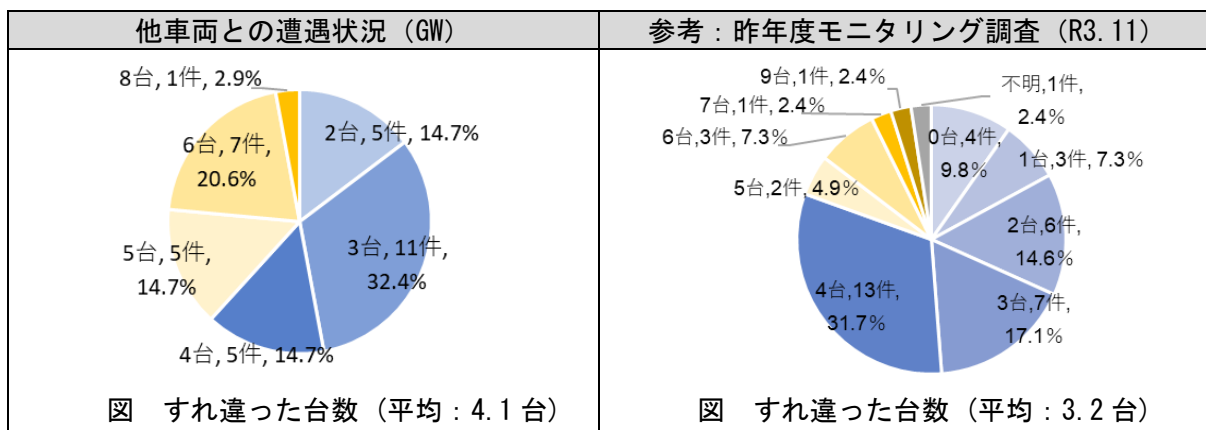
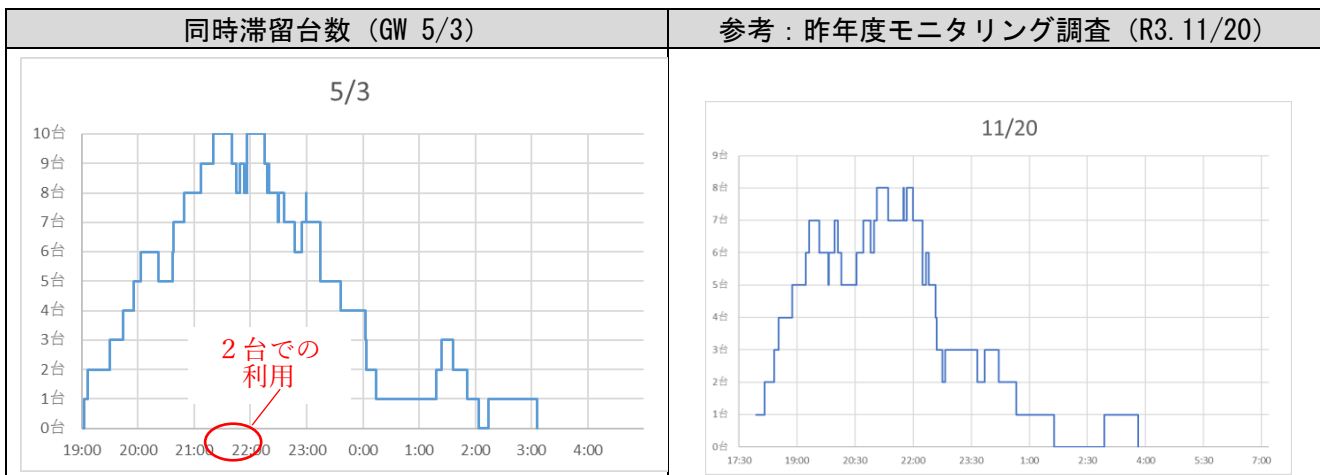
## ③未予約者への対応(特筆すべき状況)

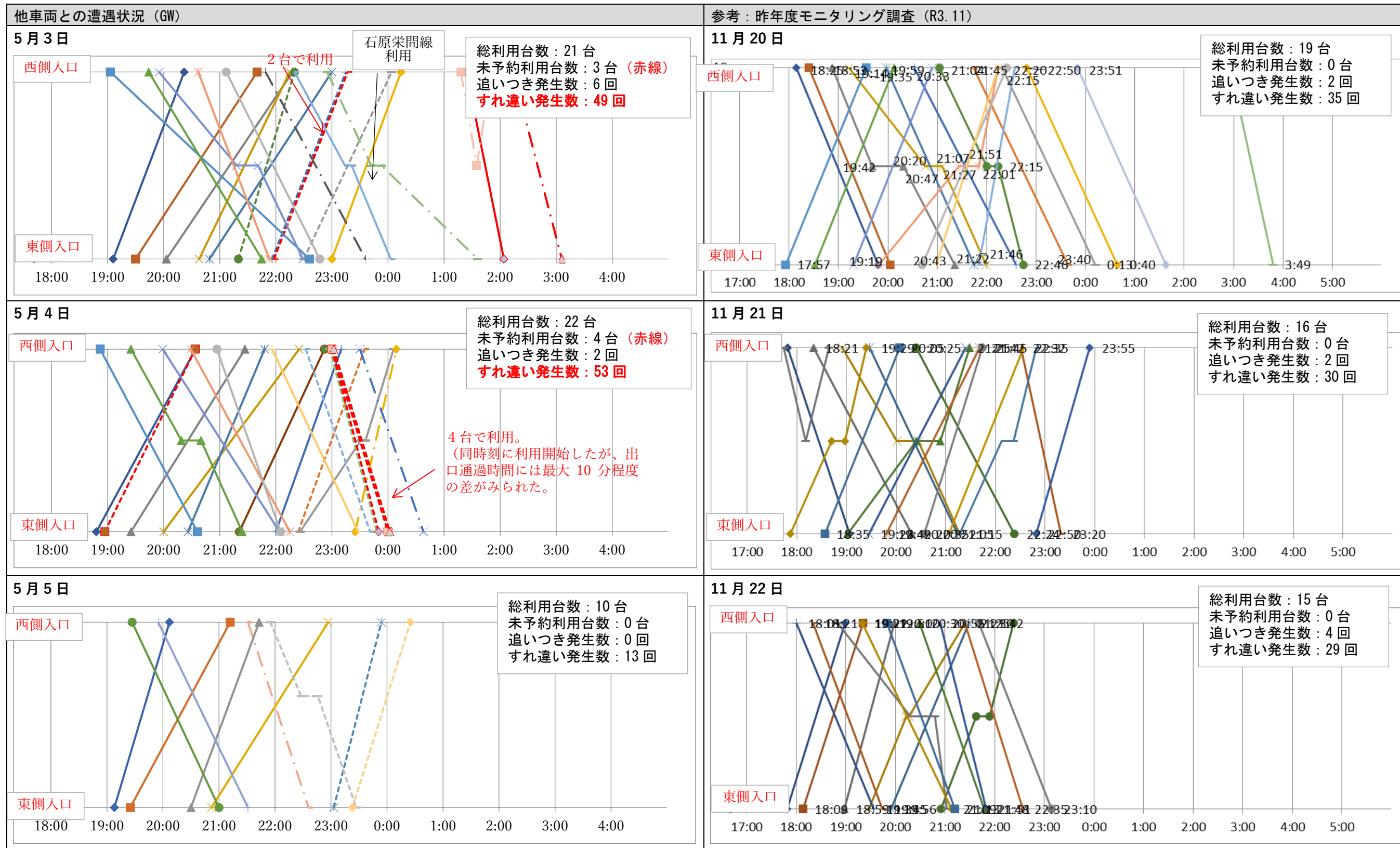
No.	日時・場所	属性	状況
1	5月3日 21:56(東側)	地元	1 枠を予約していたが、大人数(親戚)のため <b>2 台での通行を希望し、自粛依頼を受け入れず利用。</b>
2	5月4日 19:05(東側)	地元	何らかのルールがあることは知っていたが、予約が必要なことは知らなかった。 <b>自粛依頼を受け入れ引き返した。</b>
3	5月4日 19:25(東側)	地元	地元(瀬戸内町)だがルールがあることを知らなかった。 <b>自粛依頼は受け入れず利用した。</b> 前の利用者(予約車両)よりもアミノクロウサギ観察頭数が少なかったことを出口で知り、「次回からは予約して利用する」とルールへの理解を示した。
4	5月4日 19:25(西側)	ガイド	1 枠を予約していたガイドが <b>車 2 台(同一事業者)での利用を希望。</b> 5月3日に 2 台で利用した地元車両があったことを理由に、自分たちも 2 台での利用が認められるべきと主張したが、最終的には <b>利用自粛の依頼に応じた。</b> (1 台は引き返し、1 台のみ利用。)
5	5月4日 22:03 来訪、 22:58 利用 (西側)	地元	地元(瀬戸内町、住用)とその友人グループ <b>4 台での未予約利用を希望。</b> 事前に警察や役場への問い合わせも行ったとのことで、法的根拠のない中、ルール遵守を求めることや車両を停止させることへの <b>強い不満</b> を示した。ルールの趣旨について時間をかけて説明したところ、不満を持ちながらも一度は利用自粛を受け入れたが、その後当日の <b>空き枠を予約して 4 台での利用を希望し、通行した。</b> (1 台は予約利用、3 台は未予約利用。)

4) 混雑等発生状況【現地調査 3 日間】

- 最大で 10 台が同時に区域内に滞留しており、昨年度調査より 2 台増加した。
- 「すれ違った台数」が昨年度モニタリング調査結果より約 1 台増加し、平均 4.1 台であった。
- 自動撮影カメラから区間内の利用動態を推測、視覚化した結果、複数台利用に伴ってすれ違いが多く発生していた可能性がある。

※調査時間内（19 時～23 時）に出口を通過した 34 件の調査票を分析した。





※区間内の各車両の動きは実際の走行状況とは異なる可能性がある。

## 5) 滞留時間【現地調査 3 日間】

- ガイド車の方が、地元車、レンタカーの平均滞留時間より約 30 分長かった。(昨年度モニタリング調査と同様の傾向がみられた。)
- 日による滞在時間の差がみられた(5月3日は滞在時間が長く、5月5日は短かった。)。これには、天候や動物観察状況の影響が考えられる。

## 滞留時間 (分岐路走行時間を除く)

	平均				最大	最小
	5月3日	5月4日	5月5日	期間計		
ガイド(n=31)	1:55	1:40	1:32	1:44	3:26	0:59
地元(n=13)	1:18	1:06	1:02	1:09	1:37	0:50
レンタカー(n=7)	1:25	0:56	1:05	1:14	2:30	0:33
不明(n=1)	0:40	—	—	0:40	0:40	0:40
全体(n=52)	1:38	1:25	1:22	1:30	3:26	0:33

※全区間の滞留時間が判明している 53 台のうち、退出時間が確認できなかった 1 台は除外した 52 台について分析した。

## 6) 動物観察種数【現地調査 3 日間】

- 日別及び期間計の両方において、ガイドがほかの属性よりも多くの種を観察できていた。
- 滞留時間の長さとお観察種数との間に関連がある可能性がある。

## 観察種数 (単位: 種)

	平均				最大	最小
	5月3日	5月4日	5月5日	期間計		
ガイド(n=28)	5.3	4.7	3.8	4.7	9	2
地元(n=5)	1.7	2.0	—	1.8	2	1
レンタカー(n=1)	—	—	0.0	0.0	0	0
全体(n=34)	4.5	4.3	3.3	4.1	9.0	0.0

※調査時間内(19時~23時)に出口を通過した 34 件分の調査票を分析した。

(参考: 2021 年 11 月詳細モニタリング調査時の動物観察状況)

平均観察種数 全体: 4.0 種 (ガイド: 4.4 種、地元: 2.7 種、レンタカー: 1.7 種)

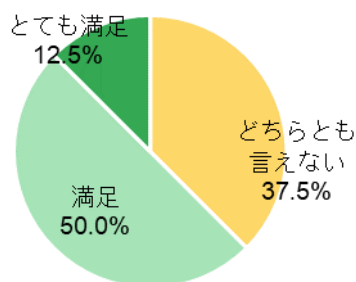
**(3) ガイドアンケート結果**

## 1) 満足度

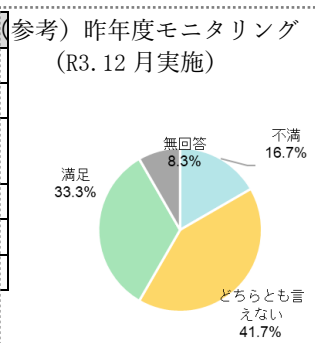
Q. GWの三太郎線でのナイトツアーの満足度を教えてください。

**①生き物がたくさん見られたか**

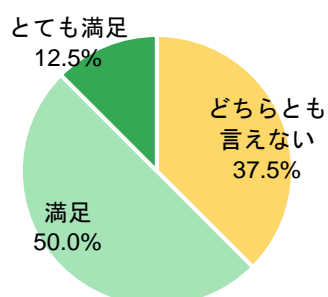
○GW期間中では「とても満足」または「満足」が5名(62.5%)であり、「とても不満」または「不満」と回答した人はいなかった。



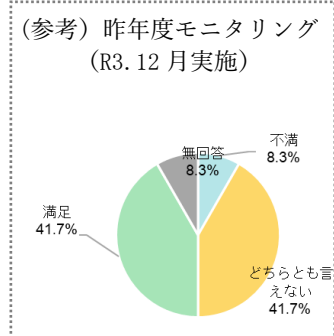
	回答数	割合
とても不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
どちらとも言えない	3	37.5%
満足	4	50.0%
とても満足	1	12.5%
合計	8	100.0%

**②生き物をじっくり観察できたか**

○「とても満足」または「満足」が5名(62.5%)で、「とても不満」または「不満」と回答した人はいなかった。

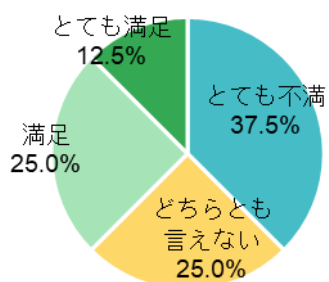


	回答数	割合
とても不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
どちらとも言えない	3	37.5%
満足	4	50.0%
とても満足	1	12.5%
合計	8	100.0%

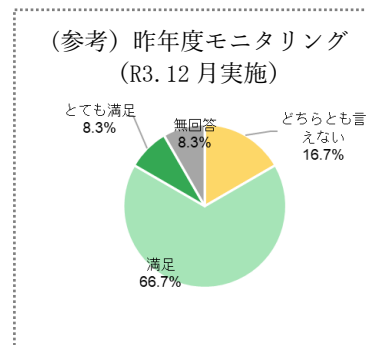
**③安全に安心して通行できたか**

○通行の安心安全については、「とても満足」または「満足」と「とても不満」が同数であり、3名(37.5%)であった。

○令和3年12月の結果と比べて「満足」が約4割減少し、「とても不満」が4割弱増加した。



	回答数	割合
とても不満	3	37.5%
不満	0	0.0%
どちらとも言えない	2	25.0%
満足	2	25.0%
とても満足	1	12.5%
合計	8	100.0%

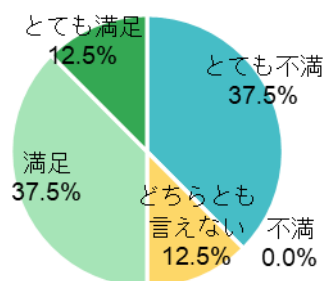




## ④ナイトツアーの総合的な満足度

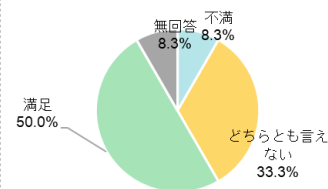
○総合的な満足度については、「とても満足」または「満足」が4名（50.0%）であり、「とても不満」が3名（37.5%）であった。

○令和3年12月の結果と「不満」または「とても不満」が約3割増加した。



	回答数	割合
とても不満	3	37.5%
不満	0	0.0%
どちらとも言えない	1	12.5%
満足	3	37.5%
とても満足	1	12.5%
合計	8	100.0%

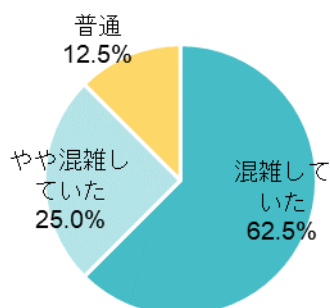
(参考) 昨年度モニタリング  
(R3.12月実施)



## 2) 混雑の感じ方

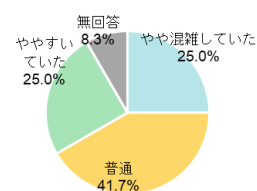
Q. GWの三太郎線の混雑状況について、どのように感じる日が多かったか教えてください。

○「やや混雑していた」または「混雑していた」が7名（89.5%）であり、1名以外は混雑を感じていた。



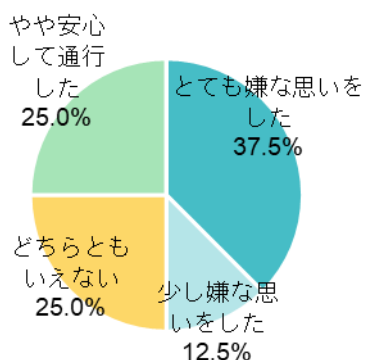
	回答数	割合
混雑していた	5	62.5%
やや混雑していた	2	25.0%
普通	1	12.5%
ややすいていた	0	0.0%
すいていた	0	0.0%
合計	8	100.0%

(参考) 昨年度モニタリング  
(R3.12月実施)



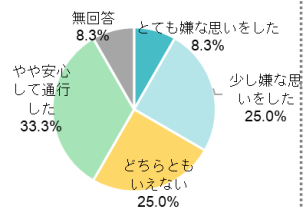
Q. 他の観察者との遭遇時の感想と理由を教えてください。

○「とても嫌な思いをした」または「少し嫌な思いをした」が4名（50.0%）であった。



	回答数	割合
とても嫌な思いをした	3	37.5%
少し嫌な思いをした	1	12.5%
どちらともいえない	2	25.0%
やや安心して通行した	2	25.0%
とても安心して通行した	0	0.0%
合計	8	100.0%

(参考) 昨年度モニタリング  
(R3.12月実施)





## 3) 自由記述意見

Q. GW の利用を通して、夜間利用ルールについて感じた点があれば教えてください。

回答内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型連休（繁忙期）は一般車も入り、予約も取り辛い状態がある。死活問題。連休中は予約なしの車（一般、ガイド含む）が多く<u>自主ルールは限界を感じた</u>。GWは特に雨も多くヘビやカエルが大量に踏まれて死んでいた。知識や情報のない人（ウサギだけを見に来る人）が多すぎる。<u>講習・勉強会の義務付けが必要</u>。</li> <li>・<u>夜間利用ルールは全く機能していなかった</u>。自主規制は無理があると再認識した。環境省職員の声掛けだけでは限界がある。一般人もガイドも予約無しで入山していた。</li> <li>・連休中は監視員の配置が必要。<u>連休中はほとんど夜間ルールが守られていなかった</u>。大金を使って新しく設置したまったく意味のないカメラ。</li> <li>・業者枠が少ない。一般におさえられているのか。<u>直前だと深夜しかとれずツアー成立しない</u>。</li> <li>・GW 期間中、遅くまでゲートに立って頂いた職員の方に感謝します。ありがとうございました。ルールが本格導入されるまでは、これからもよろしくお願いいたします。</li> </ul>

Q. その他、予約や周知方法、今後の三太郎線のあり方についてなど、ご意見があれば教えてください。

回答内容
<p>&lt;予約枠・予約方法に関する意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春から夏の 19:00 からの予約枠は、予約が中々とれない。</li> <li>・<u>1業者が、2枠3枠予約を入れられたら、予約が取れない</u>。</li> <li>・<u>一度に2台同時出発出来るようにして欲しい</u>。</li> <li>・春休み、夏休み、冬休み、ゴールデンウィークなどは、<u>1業者1枠まで</u>にして欲しい。</li> <li>・一般の枠数制限。業者が枠だけとらない徹底。<u>業者は2台まとめては入れるようにした方が混雑しない</u>。</li> </ul> <p>&lt;周知に関する意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GW 中は検問のように立ってくれているが、誰も居なければ入ってくるレンタカーが多いです。まず、<u>予約制という事を知ってる観光客が少ない</u>です。なので、レンタカーを借りる段階で三太郎線は予約が必要と告知、周知していくことが必要だと思います。また、ガイドブックや宿泊先での周知もしていくことも大切だと思います。</li> <li>・<u>宣伝はできてるが、自主規制を守ろうと思うまでの周知はできていない</u>。</li> </ul> <p>&lt;ゲートの設置について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>三太郎線の規制を和瀬線まで広げ</u>、出入り口に門を設置して。自主規制は限界がきてる。無理。意味ない。このままで夏休みの事を考えると不安でならない。</li> <li>・金作原と同じで<u>門の設置が必要</u>。</li> </ul> <p>&lt;講習会の実施について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講習、勉強会の実施（受講者のみ入山可能）</li> <li>・講習会開催して受講者のみ入山許可する必要。</li> </ul> <p>&lt;条例など&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奄美市の条例で罰則を設けるなど必要。</li> </ul> <p>&lt;人員配置について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連休中は監視員の配置が必要。無人のカメラでは全くの無意味。</li> </ul> <p>&lt;その他、全体的な意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三太郎線の今後については、門の設置・監視員配置・講習会受講義務付け・市条例の制定など徹底してやらないと意味がない。既存の夜間利用ルールでは自然を壊していくだけになりかねない。</li> </ul>

以上

## ゴールデンウィーク等の利用状況を踏まえた当面の対応と検討課題

### 1. 地元利用について

#### 1) 現状と問題点

##### (1) 住民からの意見

令和4年4月28日に開催された住民説明会において、住民から以下の意見があった。(抜粋) また、参考資料2のとおり、住用町の集落から当連絡会議に要望書が送付された。

- ・GW中の予約がガイドさんでほぼ埋まっていて、帰省してくる子供や孫たちを連れて行けない。
- ・地元が利用できない状態について今すぐにも改善すべき。
- ・住民が予約を取れない今の状況を踏まえ、夏頃までにルールを改正するなど、臨機応変に対応できないのか。
- ・役場と地域住民で、三太郎線で「歩こう会」を実施し、草刈り等道の整備を行ったりしてきた。三太郎線を守ってきたのは住用の人たちだから、ガイドや観光客よりも、地域住民を一番に尊重してほしい。
- ・観光繁忙期に住用町住民が三太郎線にナイトツアーに行けるように「地元枠」を設けてほしい。

##### (2) GWの予約状況

・GW(R4.4.29～5.8)の予約状況は、下表に示す通り、ガイドが約3/4を占め、地元、レンタカーは合計2割程度であった。(右表)

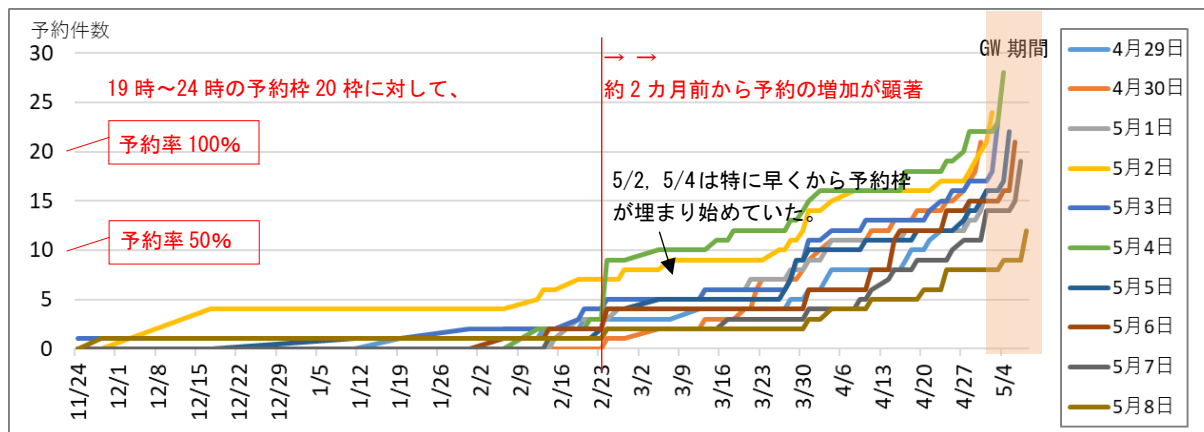
属性	予約数	割合
ガイド	153	76.1%
地元	21	10.4%
レンタカー	17	8.5%
不明	10	5.0%
合計	201	100.0%

・予約時期については、早い場合には前年11月から埋まった枠もあった。

・多くの枠が埋まり始めたのは約2カ月前からであり、直前にはさらに多くの予約が入った。

・地元利用者で最も早い予約は4/4であった。

→地元利用者が予約を検討する段階で、特に早めの時間は多くの枠が埋まっていたと考えられる。



▲日ごとの予約率の推移

##### (3) ガイド事業者からの意見

・GW期間のガイドアンケートでは「予約が取りづらい、業者枠が少ない、深夜しか空いていない」と

いう意見があった。

・また、「すぐに予約枠が埋まってしまう状況はガイドも住民も同様。共通ルールであるので地元住民も早くから予約すればよいのでは」との意見も見られた。

### 2) 対応の方向性

#### 対応① (実証実験) 繁忙期における地元枠の設定

地元住民の利用機会を確保するため、住用町の住民を対象として、利用ピーク期等に地元住民専用の「地元枠」を設定する。

##### 【対象範囲の設定】

住用町住民(ただしガイド事業者を除く)

##### 【設定期間】

繁忙期(GW、お盆、SW、年末年始)

##### 【予約枠数と時間帯】

利用が集中する時間帯のうち、早い時間帯(19:00～)を1日1枠

##### 【地元枠の運用方式】

- ・予約サイト上から利用できるよう予約サイトに「地元枠」を設定する
- ・希望する地元住民は各自予約サイトで申し込み。(先着順)
- ・予約時に「住所」を入力してもらうことで地元利用かを確認。

⇒2022年のシルバーウィーク(9月17～25日)に効果検証のための実証実験を実施予定。結果に応じて今後繁忙期に適用。

#### 対応② 地元住民向け観察イベントの実施

利用ピーク期において、地元利用の機会を確保するため、地元住民(特に子供等)を対象に観察イベントを開催する。

当面の利用ピーク期における緊急的な対応として今夏から実施予定。その後も定期的な実施を検討。

#### ＜ガイド事業者による地元住民向けナイトツアーの実施(2022年8月)＞

##### 【参加対象】

○住用町住民、主に子供を対象。

##### 【日程】

8月13日 19:00～西

8月15日 19:00～西

8月20日 19:30～東

⇒2022年8月実施予定。

## 2. 予約 1 枠の利用台数

### 1) 現状と問題点

#### (1) GWに見られた状況

No.	日時・場所	属性	状況
1	5 月 3 日 21:56 (東側)	地元	1 枠を予約していたが、大人数（親戚）のため <b>2 台での通行を希望し、自粛依頼を受け入れず利用。</b>
2	5 月 4 日 19:25 (西側)	ガイド	1 枠を予約していたガイドが <b>車 2 台（同一事業者）での利用を希望。</b> 5 月 3 日に 2 台で利用した地元車両があったことを理由に、自分たちも 2 台での利用が認められるべきとの意見であったが、最終的には <b>利用自粛の依頼に応じた。</b> (1 台は引き返し、1 台のみ利用。)
3	5 月 4 日 22:03 来訪、 22:58 利用 (西側)	地元	地元（瀬戸内町、住用）とその友人グループ <b>4 台での未予約利用を希望。</b> 事前に警察や役場への問い合わせも行ったとのことで、法的根拠のない中、ルール遵守を求めことや車両を停止させることへの <b>強い不満</b> を示した。ルールの趣旨について時間をかけて説明したところ、不満を持ちながらも一度は利用自粛を受け入れたが、その後当日の <b>空き枠を予約して 4 台での利用を希望し、通行した。</b> (1 台は予約利用、3 台は未予約利用。)

#### (2) ガイド事業者からの意見

・4 月 19 日に有志のガイドメンバーから環境省奄美群島国立公園管理事務所に提出された意見書において以下の意見が寄せられた。

・予約一枠で車両 2 台を連ねて通行可能とするルールの追加。

繁忙期(卒業旅行・ゴールデンウィーク・夏休みなど)大口のお客様に対応したいため、一利用者が複数時間枠を占領し、他の利用者が時間枠を予約できなくなる事を防げる。

・また、GW 期間のガイドアンケートにおいても、「業者は 2 台まとめて入れるようにした方が混雑しない。」との意見があった。

### 2) 対応の方向性

#### 対応③ (実証実験) 繁忙期における予約 1 枠あたりの利用台数の変更

予約 1 枠に複数台の利用を可能とすることで利用ピーク期の混雑を緩和する。自然環境保全や車両間でのコミュニケーション確保の観点からは出来るだけ少ない車両での通行が望ましいことから、予約 1 枠の利用台数は 2 台と設定する。

##### 【ルール案】

- 繁忙期のみ、予約枠 1 枠につき車両 2 台通行可能とする。
- 2 台通行の場合、車両同士は極力離れずに通行することとするが、道路の状況に応じた安全な車間距離を確保する。
- 1 枠の利用は 1 団体（実際に予約した団体）のみ可能。
  - ・ガイド事業者であれば 1 事業者のみ。
  - ・地元住民であれば 1 家族とその親族のみ。
  - ・観光客であれば 1 団体のみ。
- 車両 2 台の場合、石原栄間線の通行はなるべく避ける。通行する場合は、安全に十分に注意する。

○繁忙期のみ、ガイド事業者の利用は 1 事業者につき 1 日 1 枠までとする。

⇒2022 年のシルバーウィーク（9 月 17～25 日）に効果検証のための実証実験を実施予定。結果に応じて今後繁忙期に適用。

### 3-1. レンタカー利用者について

#### 1) -1 現状と問題点

- ・ナイトツアー利用者のうち、レンタカー利用とガイド利用を比較すると、ガイド利用の方が、アマミノクロウサギ観察頭数、観察種数が多い。
- ・レンタカー利用者は現地に来てからルールを知るケースも多い
- ・レンタカー利用者は、ガイドツアーに比べて走行速度が速くなる傾向が見られた。

#### <滞留時間 1 時間以下の車両台数の割合>

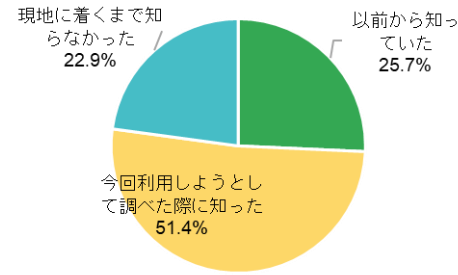
表-アマミノクロウサギ観察頭数(平均)

	第 1 回 実証実験 (R2.11)	試行前 状況調査 (R3.8)	R3 詳細モ ニタリング (R3.11)	R4 詳細モ ニタリング (R4.5)	総計
ガイド ツアー	5.2 (n=41)	8.1 (n=15)	4.5 (n=32)	9.9 (n=28)	6.5 (n=116)
地元	3.9 (n=18)	5.0 (n=29)	3.2 (n=6)	10.2 (n=5)	4.9 (n=58)
レンタ カー	2.7 (n=15)	6.0 (n=1)	2.7 (n=3)	0 (n=1)	5.3 (n=20)

表-観察種数 (平均)

	第 1 回 実証実験 (R2.11)	試行前 状況調査 (R3.8)	R3 詳細モ ニタリング (R3.11)	R4 詳細モ ニタリング (R4.5)	総計
ガイド ツアー	3.6 (n=41)	5.5 (n=15)	4.4 (n=32)	4.7 (n=28)	4.3 (n=116)
地元	2.7 (n=18)	2.4 (n=29)	2.7 (n=6)	1.8 (n=5)	2.5 (n=58)
レンタ カー	2.1 (n=15)	5.0 (n=1)	1.7 (n=3)	0 (n=1)	2.1 (n=20)

#### <ルール認知度 (レンタカー)>



#### <滞留時間 1 時間以下の車両台数の割合>

- ・三太郎線内の滞留時間が 1 時間以下の利用車両は「時速 10km 以下」での走行ルールを順守していない可能性が高い。滞留時間が 1 時間以下の利用車両の割合は、ガイドが最も少なく、地元車、レンタカーの順に多い。

表-滞留時間1時間以下の車両台数(割合)

	R3 詳細モニタリング調査			R4.GW 詳細調査			合計		
	滞留 1時間 以下台数	総利用 台数	割合	滞留 1時間 以下台数	総利用 台数	割合	滞留 1時間 以下台数	総利用 台数	割合
ガイド	0 台	33 台	0.0%	1 台	33 台	3.0%	1 台	66 台	1.5%
地元車	3 台	10 台	30.0%	3 台	23 台	13.0%	6 台	33 台	18.2%
レンタカー	1 台	6 台	16.7%	3 台	12 台	25.0%	4 台	18 台	22.2%
合計	4 台	49 台	8.2%	7 台	68 台	10.3%	11 台	117 台	9.4%

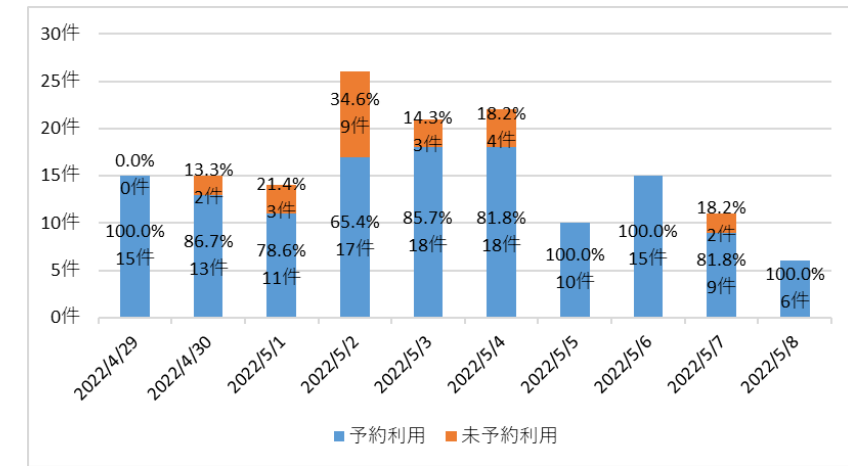
### 3-2. GWの未予約利用について

#### 1) -2 現状と問題点

##### 1) 未予約利用状況

2022 年の GW 期間中で未予約利用が最も多かったのは 5/2 で、9 件 (34.6%) の未予約利用が見られた。

日付	4/29 (金・祝)	4/30 (土)	5/1 (日)	5/2 (月)	5/3 (火・祝)	5/4 (水・祝)	5/5 (木・祝)	5/6 (金)	5/7 (土)	5/8 (日)	総計	割合
予約 利用	15	13	11	17	18	18	10	15	9	6	132	85.2%
未予約 利用	0	2	3	9	3	4	0	0	2	0	23	14.8%
合計	16	15	14	26	21	22	10	15	11	6	155	100.0%



##### 2) ルールの情報源

ルールの情報源として、島外利用者は「ガイドに聞いた」が最も多く、島内利用者は「環境省や奄美市の HP」が多かった。

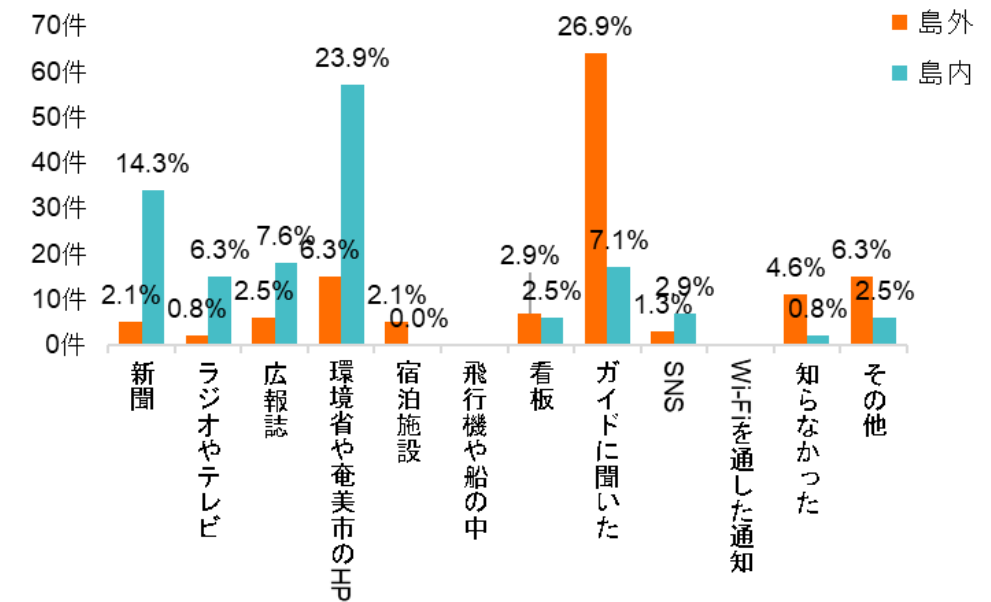


図-ルールの情報源 (試行後全期間)

## 2) 対応の方向性

### 対応④ ルールの実効性確保のための周知の徹底

島内での周知の徹底の他、来島者に対しては旅行前～来島時など旅行の様々な段階において効果的な情報発信を行う。またガイド利用の推奨について、今後 HP やチラシを更新するにあたり、より重点的に発信していく。

※本年5月に全レンタカー事業者に対して、利用ルールの周知について依頼済み。引き続き、主に島外利用者向けに効果的な周知方法を検討。



## ゴールデンウィーク等の利用状況を踏まえた当面の対応と検討課題(まとめ)

## 試行ルール の現状・問題点 (GW 等の状況)

## &lt;地元利用について&gt;

○利用者の増加に伴って、特に利用ピーク期において予約枠が数か月前から埋まってしまい、地元住民が利用しづらい状況が発生している。

## 【住民意見 (例)】

\* GW 中の早い時間帯の予約枠はガイドツアーでほぼ埋まっており帰省した子供や孫たちを連れていけない。

\* 草刈りなど道の管理を行ってきた住用の住民を尊重して欲しい。

## 【ガイド意見 (例)】

\* すぐに予約枠が埋まってしまう状況はガイドも住民も同様。共通ルールであるので地元住民も早くから予約すればよいのでは。

## &lt;グループの利用台数について&gt;

○グループの利用人数が多い場合があり、予約1枠あたり複数台の利用希望がある。

## 【住民意見 (例)】

\* 帰省した親戚や友人と一緒に利用したいので複数台で連なって利用したい。

## 【ガイド意見 (例)】

\* 繁忙期の大口利用に対応するため予約1枠で車両2台を連ねて利用可能とするルールを追加して欲しい。一事業者が複数時間枠を占有することがなくなり混雑緩和につながる。

## &lt;レンタカー利用について&gt;

○レンタカー利用者はガイド利用に比べてクロウサギの観察頭数や希少種の観察種数が少なく、速度ルールの遵守率が低い。

## &lt;GW の未予約利用の増加について&gt;

○GW 期間中にはルールを知らない利用者が多く、未予約利用も増加した。

## 当面の対応の方向性 (案)

## ① 繁忙期における地元枠の設定

今秋実証実験

★地元住民の利用機会を確保するため、住用町の住民を対象として、利用ピーク期等に地元住民専用の「地元枠」を設定する。

※地元枠設定については、関係者の合意を前提として、今秋に効果検証のための実証実験を行いたい。

## ② 地元住民向けの観察機会の提供

今夏

★利用ピーク期において、地元利用の機会を確保するとともに、ガイド事業者による地元住民への貢献の一環として、地元住民（特に子供等）を対象に観察イベントを開催する。

※観察イベントについては、当面の利用ピーク期における緊急的な対応として今夏から実施予定。

## ③ 繁忙期における予約1枠あたりの利用台数の変更

今秋実証実験

★予約1枠に複数台の利用を可能とすることで利用ピーク期の混雑を緩和する。

★自然環境保全や車両間でのコミュニケーション確保の観点から、出来るだけ少ない車両での通行が望ましいことから、予約1枠の利用台数は2台と設定することを想定する。

※予約1枠あたりの利用台数の変更については、関係者の合意を前提として、今秋に効果検証のための実証実験を行いたい。

## ④ ガイド利用推奨をより明確に発信

早急に

★島内での周知の徹底の他、来島者に対しては旅行前～来島時など旅行の様々な段階において効果的な情報発信を行う。

★利用ルールは「全ての利用者」を対象としたものであるが、レンタカー利用者はルール認知度が低い状況がみられることから、自然環境保全と質の高い利用体験提供の観点から、ガイド利用の推奨についてより明確に発信していく。

## 具体的なルール・取組 (案) の概要

## 【ルール案】

- 対象範囲：住用町住民（ただしガイド事業者を除く）
- 地元枠の設定期間：繁忙期（GW、お盆、SW、年末年始）
- 地元枠数と時間帯：1日1枠、早い時間帯（19：00～）

## 【観察イベントの概要】

- 住用町住民（主に子供）を対象
- 本年8月に開催。今後定期的な実施を検討
- ガイドの地元貢献の活動の一環として実施

## 【ルール案】

- 繁忙期のみ、予約枠1枠につき車両2台通行可能とする
- 2台通行の場合、車両同士は極力離れずに通行することとするが、道路の状況に応じた安全な車間距離を確保する。
- 1枠の利用は1団体（実際に予約した団体）のみ
- ガイド事業者の利用について、1事業者につき1日1枠までとする
- 車両2台の場合、石原栄間線の通行はなるべく避ける。通行する場合は、安全に十分に注意する

## 【周知の徹底】

- ガイド利用の推奨について、今後HPやチラシを更新するにあたり、より重点的に発信していく
- 本年5月に全レンタカー事業者に対して、利用ルールの周知について依頼済み。引き続き、主に島外利用者向けに効果的な周知方法を検討

## 試行ルール変更に関する実証実験について

ゴールデンウィーク等の利用状況を踏まえて資料2で示された対応の中には、現行の試行ルールの変更を伴うものがある。そのため、実証実験を行いルール変更の効果・影響を把握し、その妥当性を評価する必要がある。

### 1. 変更ルールの検証と評価方法

#### 1) 効果・影響を検証するルール

資料2で示された対応の方向性（案）のうち、試行ルールの変更を伴うものは、「繁忙期における地元枠の設定」及び「繁忙期における予約1枠あたりの利用台数の変更（+1事業者1日1枠利用）」である。

試行ルール（現行）	対応の方向性
地元枠の設定なし	繁忙期における地元枠の設定
・予約1枠あたり1台 ・1事業者の予約数に制限なし	・繁忙期における予約1枠あたりの利用台数の変更（1枠あたり2台）+1事業者1日1枠利用

#### 2) 検証内容、検証方法と評価の観点

##### ① 地元枠の設定

以下の項目について、検証内容、検証方法、評価の観点は以下を想定する。

項目	検証内容	検証方法	評価の観点
地元への配慮	利用者属性の変化 地元枠の利用率	予約情報の分析 地元住民への聞き取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去のデータと比較して、利用者属性の割合に変化が見られるか</li> <li>枠数、時間設定が地元の需要を満たしているか（予約の取りやすさ等）</li> </ul>
他属性への配慮	ガイドの感じ方	ガイドアンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元枠の数や時間設定の妥当性</li> </ul>
	観光客の感じ方	利用者アンケート	
	島内利用者の感じ方		<ul style="list-style-type: none"> <li>トラブルが発生しないか</li> <li>特定の利用者に不利益が生じていないか</li> </ul>
トラブル発生状況	現地での聞き取り		
ルール順守	ルールの認知、順守	利用者アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元枠利用者のルール認知、順守率を他属性と比較</li> </ul>
予約方法	予約方法の適切性	地元枠利用者への聞き取り（現地）	<ul style="list-style-type: none"> <li>予約方法に不満や不便を感じていないか</li> </ul>

## ② 予約1枠2台利用及び1事業者1日1枠利用

検証する項目とその内容、検証方法、評価の観点は以下を想定する。

項目	内容	方法	評価の観点
ルール順守	適切な車両間隔 台数ルールの順守	車番認識システム 現地での確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ同時刻に出口を通過しているか</li> <li>・3台以上の利用がないか</li> </ul>
		利用者アンケート (路線内で離れて走行していないか質問)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2台1組で入った車が路線内で離れて走行していないか</li> </ul>
ルールの妥当性	1枠2台利用、1事業者1日1枠利用のルールが適切であるか	ガイドアンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切と考えるガイドの割合</li> <li>・特定の利用者に不利益が生じていないか</li> </ul>
交通混雑	利用台数の変化 追いつき、すれ違いの発生状況	車番認識システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用台数、追いつき・すれ違い数を過去データと比較し、著しい増加が見られないか</li> </ul>
利用者の感じ方	混雑の感じ方 他車両遭遇時の感想	利用者アンケート ガイドアンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「混雑していた」「嫌な思いをした」の回答割合を過去データと比較し、大幅な増加等が見られないか</li> </ul>
	トラブル発生状況	現地での聞き取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルが発生しないか</li> <li>・特定の利用者に不利益が生じていないか</li> </ul>
動物観察状況	以下の観点で観察状況 を比較 ①1台目と2台目 ②1台利用と2台利用	現地での聞き取り 利用者アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車両台数や順番によって、観察機会に大きな差が生じないか</li> </ul>



## 2. 実証実験 実施概要（案）

### 1) 期間：

2022年のシルバーウィーク（9月17日～25日）を想定。うち現地調査は3日間程度を想定。

9/17	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24	9/25
土	日	月・祝	火	水	木	金・祝	土	日

← 現地調査日程（案） →

### 2) 時間：各日 18時～23時（23時以降は車番認識システム、自動配信アンケートを活用）

### 3) 変更ルールへの対応方法

#### ① 地元枠

- ・期間中に1日1枠を地元枠として確保する。予約サイト上から利用できるよう予約サイトに「地元枠」を設定する（連絡会議後早急に予約）

→希望する地元住民は各自予約サイトで申し込み。（先着順）

※既に予約が入っている日時については設定せず。

- ・予約時に「住所」を入力してもらうことで地元利用かを確認。
- ・周知：9月の広報誌で日程及び申し込み期間・申し込み方法を周知。

※地元枠の時間帯、方向（東西）について、他属性の利用を著しく妨げないよう検討が必要。

#### ② 1枠2台利用

##### A. これから予約する人への対応

- ・予約時に入力する項目（アンケート欄）に以下のように記載。

「9月17日～25日は、1枠2台までの通行を可能とするルールの実証実験を行います。2台目の通行を希望する方は、以下の欄に車両ナンバーを登録してください。」

※実証実験期間の枠を予約する人だけではなく、全ての予約枠について上記表示される。

##### B. 既に予約している人への対応

- ・メールで実証実験について説明し、グーグルフォームにより2台利用の申請を受け付ける。

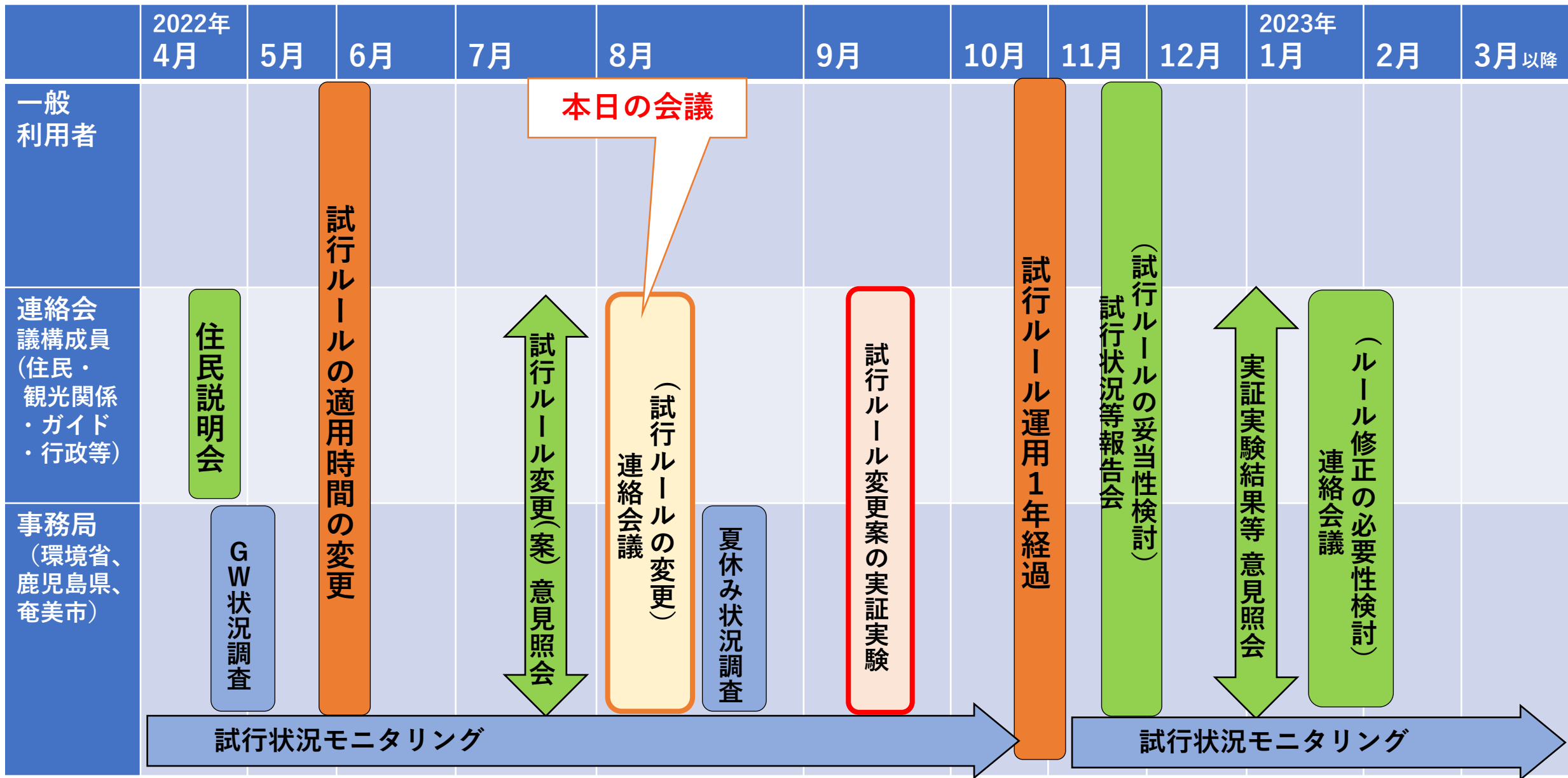
### 4) 実施体制：連絡会議事務局（環境省、鹿児島県、奄美市）＋構成団体

### 5) 周知計画：連絡会議開催後速やかに周知を開始する。

- （周知方法）地元住民 →簡易チラシの配布、広報掲載、防災無線  
ガイド、連絡会議構成員 →メールで周知  
その他利用者 →予約サイト、環境省HPに掲載

以上

# 今後のスケジュール（案）

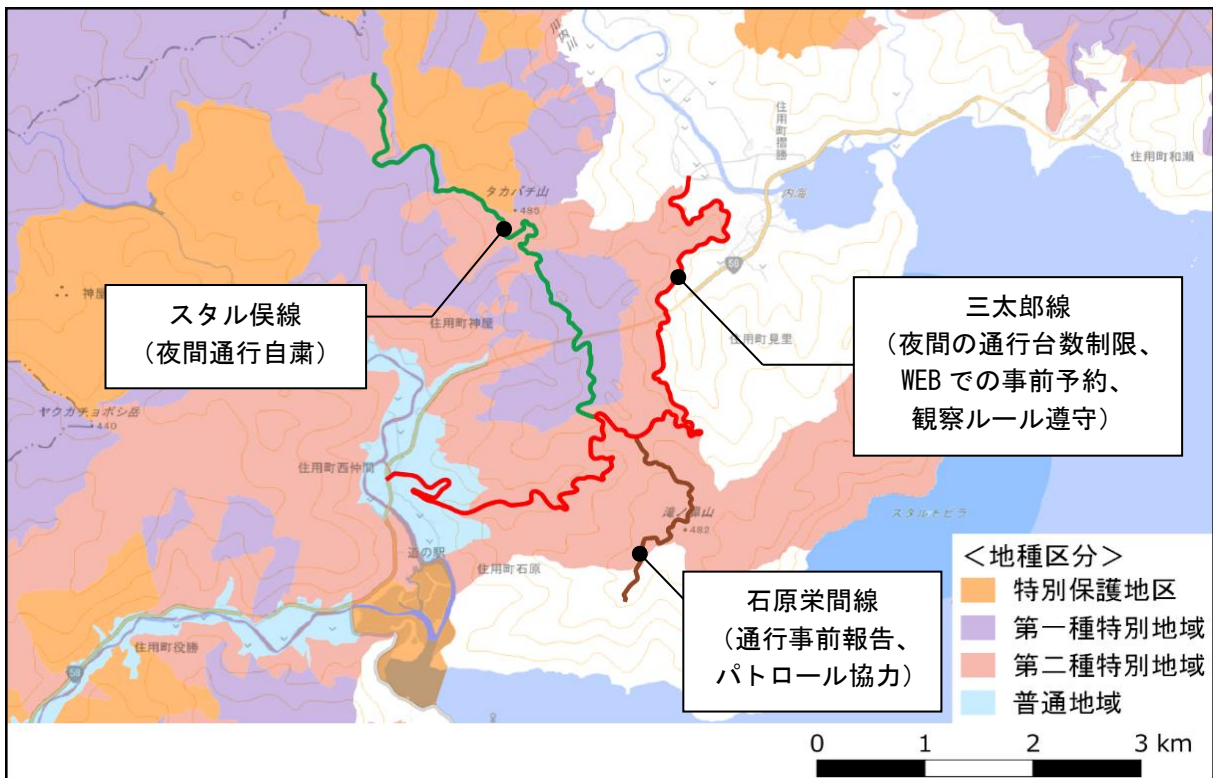


# 奄美大島三太郎線周辺における夜間利用適正化のための 試行ルール

## 1. 試行ルールの概要

自然環境への悪影響を低減し、質の高い利用体験の提供・安全確保を図るため、以下の利用規制等を試行する。

- 世界遺産の緩衝地帯を通過する三太郎線は、WEBでの事前予約による夜間の通行台数の制限を行う。
- 世界遺産地域を通過するスタル俣線は、夜間通行自粛とする。
- 車両の走行速度やライトの使用法など、夜間の野生動物観察のルールを設定する。
- 夜間野生動物観察に不慣れな方はガイドの同行（有料）を推奨する。



## 2. 運用開始時期・適用時期

運用開始時期：令和3年10月29日（金）～

適用時間：

○春季・秋期（3月～5月、8月～9月）：各日18時～翌6時

○夏季（6月、7月）：各日19時～翌5時

○冬季（10月～2月）：各日17時～翌7時

※運用状況を踏まえて、必要に応じてルールの見直し等を検討する。

## 3. 試行ルールの内容

### (1) 事前予約による夜間の通行台数、利用時間、通行方向の設定

#### <対象路線>

市道三太郎線

#### <実施方法>

##### ①事前予約について

- ・三太郎線の利用については、**事前にWEB上の予約システムで各自予約をおこなう**。WEBが使えない方向けに、奄美市住用総合支所及び奄美野生生物保護センターにおいて予約のサポートをおこなう。
- ・予約状況は事務局が管理する。
- ・利用者種別による枠数の設定は行わない。
- ・ルールの実効性を確保するため、予約者がガイド事業者である場合には事業者名が、それ以外である場合は「一般利用」ということが、誰でも確認できるシステムとする。

#### 【事前予約の運用方法】

- 予約は、WEB上の予約システムに各自で登録する。
- ルールを確認したことをもって予約が可能となるような予約システムとする。
- 仮押さえは禁止。また、予約をキャンセルする際はキャンセル手続きを行うこと。
- 予約をおこなうとメールが予約者に届き、予約日時を確認できる。

※学術調査、行政調査による利用は別途事務局あてに申請を求める。

※区間内に土地を所有し夜間に通行する必要がある方について、事前に申請した場合は、最寄りの入り口から自分の土地までの区間の通行を予約不要とするが、速度等のルール遵守への協力をお願いします。土地所有に関する事前申請は住用総合支所で受け付け、土地所有者である旨が分かる通行証などを発行する。

※行政主体のパトロールは予約・申請不要とする。

##### ②台数制限について

三太郎線の通行台数、利用時間、通行方向等に関して、以下のルールを試行する。

#### 【利用車両数等に関する試行ルール】

- 1時間あたりの利用台数を**4台**までとし、**夕方から明け方まで**※適用する。

※春季・秋期（3月～5月、8月～9月）：各日 18 時～翌 6 時

夏季（6月、7月）：各日 19 時～翌 5 時

冬季（10月～2月）：各日 17 時～翌 7 時

○三太郎線の走行方向は両方向とし、入れるのは 30 分間隔で各方向 1 台ずつとする。

○U ターンは原則しない。

- ・予約時間は三太郎線の東仲間・西仲間入口の出発時間とし、毎時 00 分、30 分に各入口 1 台（=30 分ごとに合計 2 台）の予約を受け付ける。利用開始は予約時間の前後 5 分間を目安とし、予約時間に大きく遅れた利用者に対しては、利用の自粛をお願いする。
- ・利用状況については監視カメラや現地スタッフ等により把握をおこなう。

## （2）夜間の野生動物観察ルールの設定

### <対象路線>

市道三太郎線、市道石原栄間線

### <実施方法>

- ・利用者には、以下の観察ルールの遵守を依頼する。
- ・予約システムにおいて、ルールの確認を予約受付の条件とする。

### 【夜間の野生動物観察ルール】

○時速 10km 以下で、生き物に気をつけて走行する。

- ・野生動物の交通事故防止のため、極カスPEEDを控えて走行する。
- ・アマミノクロウサギだけではなく小型の両生類、爬虫類、甲殻類などにも気をつけて走行する。
- ・カエルやイモリ、オタマジャクシ等の生活の場である水たまりはなるべく車で踏まない。
- ・道路の端から飛び出してくる生き物に気をつける。
- ・下り坂はスピードが出やすいので特に注意する。

○動物から離れて、静かに観察する。

- ・動物には触らない。
- ・動物に餌を与えない。
- ・大声を出さない。
- ・車のドアを勢いよく閉めない。
- ・アマミノクロウサギ等の哺乳類・鳥類からは 2 m 以上離れて観察する。

○生き物を探すライトは車につき 1 本とする。

- ・手持ちライトで逃げていく生き物をしつこく追わない。

○前の車に追いついたら一旦待機し、合図（左ウインカー）がでるまで無理に追い抜かない。

○十分観察できた場合は後続の車に先頭をゆずる。（左ウインカーで合図する）

- ・前の車は観察が終わり次第左ウインカーを出し、追い越してもらう。
- ・皆が楽しめるよう、お互いゆずりあって利用する。

○対向車が来たときや前の車に追いついたときハイビームはやめる。

○すれ違い時には上り坂の車両優先通行とし、下り坂の車両は待機して消灯する。

○ペットを連れていかない。

- ・上記ルールとあわせて、その他の配慮事項や実験時に質問が多かった以下の事項等についてはホームページ等で周知を図る。

- ・車を降りて観察してもよいこと、その際は他の車両に注意すること。
- ・時速 10km で走行した場合、利用時間は概ね 1 時間半～2 時間となること。
- ・夜間の野生動物観察に不慣れな方はガイド同行（有料）を推奨していること。

### **（３）夜間通行自粛のお願い**

#### ＜対象路線＞

市道スタル俣線

#### ＜実施方法＞

- ・路線の起終点等において、看板を設置し、夜間のみ車両通行の自粛を依頼する。

### **（４）通行事前報告、パトロール協力**

#### ＜対象路線＞

市道石原栄間線

#### ＜実施方法＞

- ・路線の起点等において看板を設置し、悪路であることの注意喚起をおこなう。
- ・通行したい場合は、予約システムにおいて石原線を通行する旨を申請した上で、通行時に不審者や昆虫トラップの存在、ロードキル、その他異常を確認した場合には、通行後翌日までに必ず事務局に報告する。（出来る限り写真や位置情報とともに報告するように求める）

報告先：環境省奄美群島国立公園管理事務所 [RO-AMAMI@env.go.jp](mailto:RO-AMAMI@env.go.jp)

令和4年6月27日

奄美大島三太郎周辺における  
夜間利用適正化連絡事務局 殿

住用町取りまとめ役  
西仲間集落  
囑託員 紀元 三好

### 三太郎線ナイトツアーに関する要望書

謹啓

貴事務局におかれましては、ますますご隆盛のことお慶び申し上げます。

また、平素より住用町へ格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご存じの通り住用町は、世界自然遺産の中心であります。その中でも三太郎線のナイトツアーは、貴重な観光資源です。しかし、近年、ナイトツアーの人気により地元市民や業者のマナー違反が横行し、令和3年10月29日より「三太郎線周辺における夜間利用適正化のための試行ルール」が施行されました。施行当初は、ナイトツアーのルールが守られるなら、ルール作りもやむなしとっておりましたが、大型連休や夏休み冬休み等の観光客が増える時期に、観光業者が早めの予約をとっており、子供や孫が帰省した際に住用町住民の予約が取れない状況になってきました。住用町の自然は、子供や孫に住用町の自然を堪能してもらう教育自然でもあります。住用町の自然を理解してもらい、誇りに思ってもらい、将来また住用町に戻って住んでもらうための、教育資源です。

そこで地元住民が教育自然を守るため、次の通り要望いたします。

謹白

・大型連休や夏休み・冬休み等の観光客が特に増える期間（観光繁忙期）に住用町住民が三太郎線ナイトツアーに行けるよう「地元枠」を設けること



# 三太郎線周辺における お子様向け ナイトツアーイベント

主催：環境省 奄美野生生物保護センター

協力：Deep Amami、奄美ナイトツアーサービス、奄美ガイド「太古の

## 日付・開催時間

2022年 8月13日(土)18:20~21:00

8月15日(月)18:20~21:00

8月20日(土)18:50~21:30

※開始時間までにお集まりください。

※終了時間は目安であり、前後する可能性があります。

## 集合・解散場所

「奄美大島世界遺産センター」入口（住所：奄美市

## 内容

- ①事前説明 開催趣旨、ナイトツアーのルール等の説明(15分程度)
- ②ツアーの実施 三太郎線におけるナイトツアー(2時間程度)
- ③アンケートの実施 ツアー実施後、アンケートを配布いたします。

## 対象

住用町在住の小中学生及びその親族

※帰省したお子様・お孫様も参加できます。

※保護者同伴の場合は1名までといたします。

## 申込先

環境省 奄美野生生物保護センター

TEL: 0997-55-8620

※先着順(約20名程度まで)、埋まり次第終了

※申込みの際に参加者の氏名・年齢、  
代表者の住所・連絡先をお伝えください。

## 申込〆切

各ツアーの3日前12:00まで

## 参加費

無料

## 持ち物

雨具、タオル※マスクの着用をお願いいたします。

コロナウイルス感染症対策として、  
手指の消毒・体温測定のご協力をお願いいたします。

アマミノクロウサギ

アマミイシカワガエル

リュウキュウコノ

## 夜間観察のル

- ・車でゆっくり走ろう
- ・小さな生き物にも
- ・動物から離れて静
- ・触らない、餌をあ



## 意見照会における主な意見と対応（案）

○は肯定的意見、●は否定的意見や懸念事項を示す。

## （１）繁忙期における地元枠の設定について

## 意見概要

## 【自然保護団体】

- 地元枠を設けることで、これまでより三太郎の夜の森を体験する機会が増え、ルール必要性、妥当性を理解してくれる地元住民が増えていくことを期待したい。ただし、地元枠を住用町民とするのか、奄美大島島民とするのか、もう少し議論が必要。地元枠を島民対象に広げ、希望者の多い時間帯で1枠、少し遅めの時間帯で1枠設けるのはどうか。
- 地元民が予約しづらかった状況を少しでも打開するため地元枠の設定には賛成。

## 【観光組織】

- 三太郎の自然や動植物を実際に子供や孫に見てもらい、自然の大切さを感じてもらうことは素晴らしいこと。地元の方の予約に支障があるのであれば改善していくことは賛成。地元枠については住用町住民対象が良いが、地元向け観察イベントの対象者の子供については、奄美大島又は奄美市居住者とできるだけ幅広くできないか。

## 【ガイド】

- 地元枠の設定は不要。繁忙期など問わず、西仲間集落・東仲間集落の住民は、予約不要で利用可能で良い（Uターンも可）。集落の住民の夜間のハブいざり、タナガいざり、蛍狩りなどと、それに伴う生き物との遭遇は、集落文化であり、文化を規制する必要はない。地域経済の活性化にガイドが貢献している点については理解頂いた上で、利用を自粛するかどうかは、住民に委ねればよい。
- 繁忙期の地元枠を無条件に設定するのは、ルールを守っている他のガイドや一般の人との差がつくばかりで、あまりよくない。繁忙期にはガイドも簡単に予約が取れていない。エコツアーガイドが地元の人たちを招待するナイトツアー枠を作るのがよいのではないか。
- 特別枠は設けてほしくない。予約のタイミングはみな平等でなくてはならない。特別枠を設けると予約が取れずに他地域へ流れていき、その場所へのストレスも増加して、ツアー自体の質の低下につながる。地元枠は設けず、夜間観察会などを開催して地元の方にはそちらに参加してもらうのが良い。その方が専門的意見も聞けて地元の子供たちにも良いと思う。
- 事業者は夜中に集落の道に立ち入らせていただく立場なので、地元枠の確保に賛成。ただ、出来れば地元の方にも観察についての研修を受けていただきたい。
- 地元枠設定は良いかもしれないが、そもそものルール設定理由が「自然保護とロードキル防止」なので現状でも平等な予約システムと思われる。地元枠を作るなら、利用ルールの周知徹底をしないとトラブルの原因になる。



### 意見を踏まえた事務局（案）

- \* 地元枠の設定については賛否が分かれているが、実証実験を通じて、地元住民の利用機会確保について効果と課題を検証する。地元枠の対象は三太郎線との関わりが深い住用地区住民とする。
- \* ガイドによる地元住民向けの観察会等については継続的な実施を想定する。観察会の参加対象については、観察会等の参加状況を踏まえて拡大していくことも想定する。
- \* 地元枠利用や地元向け観察会の機会等を通じて、島内でのルール周知を図っていく。

## （２）繁忙期における予約 1 枠あたりの利用台数の変更について

### 意見概要

#### 【自然保護団体】

- 予約 1 枠あたりの台数を 2 台までとしてもいいと思う。ただし、極力離れず、終了時間はほぼ同じとなる行程で実施すべき。時々先頭車両を交代することで生きものを観察する機会を平等にすることもできると思う。ただ、カエルなどが路上や道脇にいた場合、1 台目はその存在に気付かず通り過ぎ、2 台目の車が轆いてしまう頻度が増えないか心配。
- 1 台の乗車人数では足りない場合もあり、予約 1 枠当たり 2 台は妥当。

#### 【観光組織】

- 混雑の解消になるのであれば良い。気になるのは、1 時間当たり 4 台であった車両が、1 枠当たり 2 台となると最大 8 台となった場合に支障がないか不安。実証実験を踏まえて改善していく方向で賛成。

- オーバーユースの観点から変更なし。

#### 【ガイド】

- 実証実験で 1 枠あたり 2 台でツアーを催行して、結果を体感してみたい。
- 夏は日没が遅く利用しやすい時間帯の予約枠の数は限られている。その少ない枠を同じ業者が複数押さえているのが現状であれば、同じ業者が 2 台連なってガイドを行い、予約枠を他のガイドなどに譲るのは、とても得策。
- ツアー業者としては質の低下にもつながるので本意ではないが、1 枠あたり車両 2 台で可能なら予約枠には余裕ができるのではないかと。夜間利用ルールが始まる前は繁忙期の車両台数が凄く多かった。ルール試行で車両台数の制限もできていると思うので繁忙期は 1 枠車両 2 台で通しても良いと思う。
- 2 台まで予約可能に賛成。
- 2 台連なってちゃんとクロウサギを見せられるガイドを行うには、かなりの経験とテクニックが必要。地元の方や一般の方も利用台数を変更するというのは、ロードキルや野生動物・生物への負荷が増す恐れがあるので、やめたほうがよい。
- ルール守る認定ガイド業者 & スタッフか登録ガイド限定で 2 台通行が良い。一般車両の 2 台走行はロードキルや追突事故などが懸念される。

- 繁忙期における1事業者1日1枠は反対する。
- 1事業者、1日1枠の案は各事業者で車両体制が違うので難しい。車両1台しかない事業者は1日に2回ツアーを開催している。



#### 意見を踏まえた事務局（案）

- \* 1枠2台利用の妥当性については、実証実験を通じて、予約枠の逼迫緩和の効果、自然環境や利用体験への影響等の観点から検証する。実証実験では当該ルールの対象をガイドに限定せず、全ての利用者に適用する。その上で利用属性別のルール運用状況や問題点等を把握しルール変更案を検討する。
- \* 1事業者1日1枠のルール設定については、事業者ごとにツアー実施方法が異なり一律の適用に対して理解が得られていない状況であるため、今回の実証実験では実施しない。実証実験においては、各事業者の利用回数と混雑状況等を把握するとともに、当該ルールの妥当性について引き続き検討していく。

### （3）実証実験の実施内容（評価方法等）について

#### 意見概要

##### 【ガイド】

- ・ 繁忙期は20分に1台など、入れる台数を増やしてほしい。ガイドですら19時30分から21時30分の有効時間内にまったく予約ができず、他のルートに行かざるを得ない場合が多く出てきており、野生動物・生物への負荷が増していく。
- ・ 20分おきに両サイドから1時間6台入場が適正と考えられる。
- ・ 西仲間集落・東仲間集落の住民は、予約不要で利用可能とした場合に、「1日何台の利用があったか、予約利用者が感じたストレス、ロードキルの発生有無」などを把握する。
- ・ 予約なし入域が多すぎて本来のロードキル防止がまだまだです。予約なし入場防止の有効な対策すべき。



#### 意見を踏まえた事務局（案）

- \* 今回の実証実験では、1時間当たりの予約枠は変更せずに、1枠2台の利用による混雑解消の効果を把握する。1時間あたりの予約枠数の妥当性については8月現地調査及び9月の実証実験等のデータを踏まえて検証する。
- \* 実証実験については前述の通り地元枠を設定し、その効果と課題を把握することを想定するが、ご意見を踏まえて自然環境や利用者への影響の観点からルールを検証していく。
- \* 未予約利用対策として、繁忙期での現地への人員配置の他、島内での周知の徹底、来島者に対する効果的な情報発信について関係機関で協力して実施していく。

#### (4) その他、三太郎線の利用適正化のための試行ルールについて

##### ①三太郎線の目指す姿、将来的な方向性について

###### (目標設定)

- ・最終的な目標を決めた方が良いと思う。条例レベルでの規制を目指すのか、現在の自主ルールでいくのか。

###### (ルールのあり方、法的根拠の確保)

- ・観光地化目的で情報発信して、誰でも観察ができますよと言う規制であってはならない。生き物を保護することが最大目標だと思う。この大自然を保全できるルールを構築して世界に誇れる規制にできたらよい。
- ・自主ルールではなく、5市町村の条例化を促し、徹底した自然環境保全に当たらないと「登録取り消し」にならないか危惧される。ロードキルの意識醸成も含め条例化を急ぐ必要がある。

###### (ガイド利用の位置づけ)

- ・旅行者（学術研究を除く）と奄美大島在住者（西中間集落・東仲間集落の住民を除く）については、強く三太郎線の利用の自粛を求めたい。旅行者には「ガイド利用推奨」ではなく「環境保全の為、ガイドを利用して下さい」という方針が望ましい。
- ・世界遺産エリアでのエコツアービジネスする最低条件として、金作原原生林と同じくらい厳しく、エコツアー認定ガイド業者とその教育を受けたスタッフ・登録ガイド以外は有料ナイトツアー・エコツアー営業は禁止すべき。真面目にやってる業者をルールで縛っても根本ルールがないので無許可や無免許業者は野放し状態では意味がない。

###### (島全体のナイトツアーのあり方)

- ・当初、ナイトツアールートはなるべく三太郎線にとどめて、他のルートに拡がらないようにしようと意図していた。しかし、一般の観光客の利用やルール無視の利用が増えたことから、ガイドも他のルートを使い始めているのが現状。このままでは、野生生物への負荷やロードキルが発生するエリアをどんどん拡げていくばかりとなる。重要ルートに観光客が自分でレンタカーなどで乗り入れることを禁止すること。まず行うべきはこれに尽きる。

###### (資金調達、脱炭素等)

- ・ナイトツアーには、入域料金をいただく。
- ・脱炭素の観点からもグリーンスローモビリティの導入をお願いしたい。



##### 意見を踏まえた事務局（案）

- \* 三太郎線の「目指す将来像」や「中長期的に必要な取組」等については、住民、ガイド・観光事業者、自然保護団体、行政等の関係者間で議論・共有することが重要と認識しており、次回会議における議題としたい。

## ②夜間利用適正化のための提案等

- ・利用者同士のトラブル、ごみのポイ捨て、騒音、光公害など生活環境への悪影響など、今後も問題が予想される。ルールが守られるために、予約をチェックしたり、利用者を調整する人員の配置が必要。
- ・事業者・地元・一般すべての方は、入山前に夜間の森のすべてを知る必要があり、知った者だけが入山するシステムが望ましい。講習会開催は必須と思う。入山者は受講することが必要条件として盛り込んでほしい。
- ・入山口にカラーコーンを設置してほしい。最初に入山する予約者が入山したら、道路脇に配置しておいたカラーコーンを道路に複数設置し、次の入山者からカラーコーンをどけて入山→道路に設置の繰り返し、最後の入山者がカラーコーンを道路わきにおくといったルールを設定。カラーコーンを道路をふさぐ形で置くことで、未予約者がいちど車を降りて、看板を見るように促すことができ、抑止力につながると考える。
- ・金作原生林同様にガイド事業者が予約をする際に、事業者の信頼性を確保するために、事前に事業者アカウント登録を必須としたい。事業者登録にあたり、奄美大島での事業納税証明、傷害保険及び車両の任意保険の写しを提出する、クレジットカードを登録して予約時に入山料を徴収する、などが考えられる。将来的には認定ガイド制度も活用していきたい。
- ・性善説で運用されているが、地元枠を含めた予約枠の占有、転売なども、今後可能性として考えられるので対策を検討する必要がある。
- ・モニタリングの結果から、ルールの認知度は上がってきているが、一方で未予約利用者は多い状況になっている。観光客に対して、ルールの認知度を更にアップさせるために、当協会のHPでも、ルール内容等を紹介できるように取り組みたい。
- ・規制をしている三太郎線と規制をしていないその他の路線で、ロードキルの種別頭数などを比較し、ルールを設けることでロードキルの減少につながることを具体的に示し、普及広報できるといいと思う。



### 意見を踏まえた事務局（案）

- \* ご意見を参考にしながら、関係機関が連携してルールの浸透を図り、ルールの実効性を高めるための取組を進めるとともに、持続可能な運用体制構築のための検討を進めていく。